

### 法政大學講義録

吾孫子, 勝 / 岡, 八 / 山脇, 貞夫 / 水野, 鍊太郎 / 松浦,  
鎮次郎

---

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

18

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

54

(発行年 / Year)

1904-09-03



（明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可）  
（明治三十四年八月十一日、三十五年八月廿一日、三十五年八月廿六日發行）

明治三十七年九月三日發行

特別法ノ十八

# 法政大學講義録

第五百號



法政大學發行

特別法第十八號目次

市制町村制 (百一三〇)

法學士 松浦鎮次郎

競賣法 (百一九七) (完)

法學士 吾孫子勝

表紙及び目次 六頁

著作權法 (百一〇七)

法學博士 水野鍊太郎

公證人規則 (百七八)

法學士 山脇貞夫

執達吏規則 (百八五)

法學士 岡八

雜報 ○郡農會補助費ノ分賦○身分登記ト戸籍吏ノ職責○買戻ノ登記

090  
1903  
5-18

所謂ノ所謂直接税間接税ノ區別ハ嘗テ市町村會議員選舉權等ヲ論スルニ當  
リ述ヘタルト同シ明治二十一年七月大藏省告示ノ定メ所ニシテ國稅並ニ在  
テハ地租所得税所得税法三ノ項第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得  
税ヲ除ク及營業稅府縣稅ニ在テハ地租別戶數別家屋稅營業稅及雜種稅市町村  
稅ニ在テハ直接國稅及直接府縣稅ノ附加稅及特別稅トシテ土地ニ賦課スル課  
別割ヲ直接稅トシ其他ヲ間接稅トシ其他府縣市町村ニ於テ其特別ニ徵收スルモノ  
ニ關シテハ府縣知事ノ稟申ニ依リ內務大臣大藏大臣ニ於テ其類別又定メ直接  
稅トスルモノハ府縣知事ヲシテ管内ニ告示スルモノトス市制町村制ノ  
主義ハ附加稅ヲ以テ本則トシ特別稅ヲ以テ例外トスルニ在リカ故ニ府縣稅ノ  
附加稅ニ付テハ何等ノ制限ナク國稅ノ附加稅ニ付テハ地租ニ對シテハ其五分  
ノ一其他ノ直接國稅ニ對シテハ其百分ノ五十ヲ超過スル率ヲ附加スル場合  
於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ限リ要スルニ反シテ特別稅  
初メヨリ內務大臣大藏大臣ノ許可ヲ受クニ限リ之ヲ賦課スル所得文  
ノ制限アリ附加稅ニ已ニ述ブルカ如ク之ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ得ニ又ハ不均

市制町村制 自治體タル市町村 市町村ノ行政

一ノ税率ヲ以テ市町村ノ全部ニ賦課スル場合ニシテ其一部ニテ賦課  
 入キモ非ズルカ故ニ國稅府縣稅ニ對スル一定ノ割合ヲ以テ市町村ノ一  
 部ニ賦課スル租稅ノ如キハ其外形上附加稅ニ類似スルニ拘ラズニ種別稅  
 トシテ見ルヘキモノト云向ホ之ニ關シテ少シシテ注意ヲ要スルモノアリ市制  
 第九十九條町村制第九十九條ニ於テハ數箇人ニ於テ專ク使用スル營造物アル  
 トキハ其修築保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課スヘク又市町村内ノ一部ニ於  
 テ專ク使用スル營造物アルトキハ其部内ニ住居シ若ハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ  
 所有シ營業店舗ヲ定メタル營業ヲ除クヲナス者ニ於テ其修築保存ノ費用ヲ負  
 擔スヘキ(但シ其一部ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘ  
 キモノトス)ト規定セリ故ニ如斯キ營造物ニ關スル費用ヲ國稅府縣稅ニ附  
 加シテ關係者ヨリ徵收スル場合ニ於テハ其稅ハ常ニ事實上市町村ノ一部ニ賦  
 課スルモノニシテ其一部ニ賦課スルモノニ違フル如ク常ニ市町村ノ全部ニ賦  
 課スルモノニシテ一種ノ特別稅ナリト云ハハ右ノ營造物ノ費用ノ爲メニ關係

者ヨリ徵收スル稅モ亦ハ特別稅ナリトイハサルヘカラスルカ如ク然レドモ  
 市町村ノ一部ニ賦課スルモノハ附加稅ニ非ストイヌハ畢竟原則ニ於テ市町村  
 ノ全部ニ賦課スヘキニ拘ラス特ニ其一部ニテ賦課スル場合ニ付テ論シタル  
 モノニシテ今ノ場合ノ如ク市制町村制ノ特別ノ規定ニ依リ初メヨリ市町村ノ  
 一部即チ營造物ヲ使用スル部分ニ對シテハ賦課ヲオスヘシトモ其一部ニ在  
 リテハ其賦課ヲ以テ所謂一部賦課ナリトイフコトヲ得ズ從テ其賦課ニシテ國  
 稅府縣稅ニ附加スルモノナラハ純然タル附加稅ナリトイハサルヘカラス又市  
 町村ノ一部ニ於テ專ク營造物ヲ使用スル場合ニ於テハ其一部ノ人民ハ市町村  
 人民トシテ一般ニ賦課ヲ受クル上ニ猶其營造物ノ修築保存ノ費用ヲ負擔スル  
 カ故ニ場合ニ依リテハ同一ノ附加稅ニ付テ他ノ部分ノ人民ヨリ高率ヲ賦課  
 セラルルコトアリ如斯キハ前見スルヘク所謂不均ニテ賦課ニ外ナラスルカ如ク  
 ト雖モ營造物ノ費用ヲ或一部モ於テ負擔スルモノト市制町村制ノ特別ノ規定  
 ニ依ル一種ノ關係ニ對シテ市町村人民ニ對スル賦課ト引離シ之ヲ見ス  
 ルヘカラス所謂不均ニテ賦課スル原則トモ平均ニテ賦課スルモノニ拘ラス特ニ



或一部ニ對シ高率又ハ低率ヲ賦課シタル場合ヲ謂フニシテ此場合ノ如ク初メヨリ法ノ規定ノ結果トシテ賦課ノ特別ノ賦課ヲ受クルモノハ決シテ不均一ノ賦課ヲ受タルモノトイフヲ得ベシナリ尙ホ附加税ニ付キ注意スベキ其本税ニ對スル關係是ナリ附加税ハ已ニ逃アルカ如ク本税タル國税又ハ府縣税ノ税額ニ對スル一定ノ率ヲ以テ之ヲ賦課スルモノナルカ故ニ初メヨリ本税ナクテハ獨リ附加税ニ存在スルコトヲ得ズ故ニ附加税賦課ノ當時ニ於テハ必ス本税ノ存在ヲ必要トスルコト明ナリ唯問題ノ要點ハ附加税ト本税トノ關係ハ終始離ルヘカヲナルモノナリ否ヤ附加税ハ必ス本税ト其存否ヲ共ニセサルヘカヲナルヤ否ヤ在リ存スルナリ若シ附加税ハ終始本税ヲ離ルヘカヲナル關係ヲ有スルモノナリトセバ例ヘハ本税タル地租カニ且賦課セラレタル後特別ノ法規ニ依リ還付セラルルカ如キ場合ニハ附加税モ亦之ヲ從テ還付セラレザルヘカラス之ニ反シテ附加税ト本税トノ關係ハ唯賦課ノ當時ニ存在スルニ止マリ且本税ヲ標準トシテ一定ノ率ヲ以テ賦課シタル以上ハ最早本税ト何等ノ關係ヲ有セザルモノナリトイフナラハ後ニ至テ本税タ

ル地租カ還付セラレルモ附加税ハ之カ爲メ何等ノ影響ヲ受タルコトガレドイハサルヘカラス吾人ニ考フル所ニ依リハ附加税ハ本税ト同一ノ課税物件ニ對シ本税ノ税額ヲ標準トシテ之ニ對スル一定ノ率ヲ賦課ストイフニ止マリ必スシモ本税ト其生命ヲ共ニスルモノニ非スニ備テ稅率シテハ參照獨立地ノタルナリ故ニ本税ニ對シ其賦課後如何ナル變化ヲ生スルモ附加税並之カ爲メ何等ノ影響ヲ受タル者固非タルナリハ附會指又ハ附會指ニ據リテ土租率市町村税賦課ノ範圍中人ニ關スルモノヲ指スルモノトイフナリ其人ニ關スルモノニ付ライベハ市町村税ノ賦課ヲ受ルベキ者ト左ノ如ク賦課率ヲ定メ又

一、市町村住民ノ賦課率ハ左ノ如ク定メ置ル

二、三箇月以上市町村内ニ滞在スル者但シ其課税ノ滞在ノ初日ヨリテ徵收

三、市町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ其營業ヲ爲メ自然產物法人店舗ヲ定

號ニ掲タル者ハ唯其土地家屋營業者ハ其所得ニ對シテ賦課スル町村税

ヲ納ムルモノト云、其土地家屋營業者ハ其課税ノ權ニ付テハ、町村對  
 住民ハ本來市町村ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノナルカ故ニ如何ナル  
 種類ノ税ヲモ負擔セザルヘカラス三箇月以上ノ滞在者モ亦其滞在人事實ニ依  
 リテ廣ク賦課ヲ受クレトモ住民ニモ非ス三箇月以上ノ滞在者ニモ非スシテ市  
 町村内ニ土地家屋ヲ有シ又ハ營業ヲナシ自然人若シテ法人居住居トイフ所  
 トナキカ故ニ決シテ住民タルコトナク又滞在一トイフコトナキカ故ニ決シテ滞  
 在者タルコトナキカ注意スヘシ唯其市町村ノ境域内ニ土地家屋ヲ有シ又ハ  
 營業ヲナスノ事實ニ依リ地稅家屋稅營業稅又ハ所得稅ヲ課セラザルノ事務ヲ  
 有スルニ止マルカ故ニ例ヘハ法人タル汽船會社又ハ電燈會社ニ對シテ土地家  
 屋外ノ物件タル會社ノ船舶又ハ電柱内上ニ課稅スルカ如キ州ナリ得ヘカラス  
 ル所ナリトス尤モ營業稅ヲ賦課スル場合ニ其課稅標準トシテ船舶噸數又ハ  
 電柱ノ數ニ依ルコトヲ勿論之ヌナリ得ヘキモノトス且モ其課稅ノ權ニ付テハ、  
 總テ土地家屋ニ對シテ賦課スル市町村稅ハ其所有者モ賦課スルヲ本則トシレ  
 トモ土地ニ對シテ賦課スル稅ヲ付テハ、特ニ其使用者モ賦課スルコトヲ得又地

租ハ時トシテハ土地臺帳記名者外ノ者并テ納稅スルハ下アル限以テ之カ附加  
 稅モ亦實際地租ヲ納ムル者ニ賦課スルモ其課稅ノ權ニ付テハ、町村對  
 以上一二三トシテ舉ゲタル者ノ中ニハ、一ノ例外ヲ決即チ皇族ハ上列各號ノ一  
 ニ該當スル場合ト雖モ違フ法律勅令ヲ以テ定ムル迄ハ從前ノ例ニ依リ課稅ヲ  
 ナサザルモノトス、又ハ其課稅ノ權ニ付テハ、町村對シテ、  
 次ニ物ニ關スル市町村稅賦課ノ範圍ニ付テハ、市町村稅ハ市町村ノ權力ノ  
 及フ範圍即チ市町村ノ境域内ニ在ル物ニ限リ之ヲ課スルヲ得ルモノナリ、市  
 町村ノ境域外ニ在ル物ニ對シテ之ヲ課スルヲ得ル故ニ土地家屋ニ對スル稅ハ  
 市町村内ニ在ル土地家屋ニノミ之ヲ課スルヲ得又營業ニ對スル稅ハ市町村内  
 ニ於ケル營業ニ對シテノミ之ヲ課スルヲ得營業稅ノ附加稅額付テハ、其本  
 稅ハ甲乙丙丁等數市町村ニ於ケル營業ヲ合算シ甲市町村ニ於テ之ヲ納ムルハ、  
 事實アリトスルモ甲市町村ニ於テ之カ附加稅ヲ賦課スルハ、當リテハ其營業稅  
 全體ヲ標準トシテ直ニ之ニ附加スルヲ得其營業稅ノ内自己ノ境域内ニ於ケル  
 業ニ對スル分ヲ算出シ之ニ對シテ附加スルモノト得ルハ、市制第九十條

條町村制第九十四條ニ於テ所得税ニ附加税ヲ賦課シ及市町村ニ於テ特別ノ所得税ヲ賦課セントスルトモハ納税者ノ町村外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業店舖ヲ定メサル行商ヲ除クヨリ收入スル所得ノ之ヲ控除スルキコトヲ特ニ規定セリ而シテ所得税ニ關シテ此規定アルニ拘ラズ營業稅等ニ關シテハ何等此種ノ規定ナキカ爲ニ或ハ他町村ニ於ケル營業ニ對シテ課税スルコトヲ許セリ而シテ内リト解釋スル者ナキヲ保セズト雖モ是ハ全立立法ノ趣旨ヲ誤ラズルヲ以テ市制町村制ニ於テ特ニ所得税ニ關シテノ如キノ規定ヲ設ケザル所以ノモノナリ土地家屋又ハ營業ニ對シテ賦課スル市町村税ハ全ク物モノニ著眼スル所謂物税ナルカ故ニ唯市町村内ニ於ケル土地家屋又ハ營業ニ對シテ課税スルヲ得ルモノナルコト明ニシテ之ニ付テ別ニ規定スルノ要ナシト雖モ獨リ所得税ニ關シテ納税者ノ所得ニ對シテ課税スルモノ無クテ從テ納税者市町村外ノ土地家屋又ハ營業等ヨリ收入スル所得ニ對シテモ亦之ヲ賦課スルコトヲ得ルモノ疑ナキニ非サルカ故ニ特ニ其點ヲ明ニシテ疑ヲ避ケントシタルニ外ナラス決シテ所得税ニ關シテノ特別ノ制限ヲ市町村ニ加シテスル所

趣旨ニ非サルナリ唯内務當局者ノ如キスラ此點ニ關シテ往往誤解ヲナセルカ如キモノアルヲ以テ吾人ハ殊更ニ此處ニ之ヲ注意ヲ與フルノ必要ヲ感セサルヲ得ス尙ホ市制第九十五條町村制第九十五條ニ於テハ數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ所得税ノ附加税ヲ賦課シ及特別ノ所得税ヲ賦課セントスル場合ニハ土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ其土地家屋又ハ營業所在ノ市町村ニ於テ之ニ賦課スヘク其他ノ所得ハ各市町村ニ平分シ各其一部分ニシテ課税スヘキコトヲ規定セリ其數額及分配法等ハ自治體タル市町村ノ規定ニ依リ如斯ク物ニ關スル市町村税賦課ノ範圍ハ廣ク市町村境域内ニ於ケル物ニ及ブヲ原則トスレトモ特ニ法ノ規定ニ依リ課税ヲ免除セラレルモノアリ即チ左ノ如キモノハ課税ノ除外ノ例ナリ

第一 所得稅法ニ於テ課税セザル所得

市制第九十六條町村制第九十六條ニハ所得稅法第三條ニ掲グル所得ハ市町村税ヲ免除スルコトヲ規定セリ所謂所得稅法トハ明治二十年勅令所得稅法ヲ指スモノニシテ其第三條ニ掲グル所得トハ一、軍人從軍中ニ係ル俸給二、官私ヨリ

受タル旅費傷痍疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料ニ營利ノ事業ニ屬セザル  
 一時ノ所得是ナリ故ニ見スレバ市制町村制ニ於テ免稅スル所得ハ今日ニ於  
 テモ右ノ三種ノ所得ニ限ラルルカ如シト雖モ思フニ市制町村制ノ規定ハ決シ  
 テ舊所得稅法第三條ニ掲ケラレタル所得トイフコトニ重キヲ置クニ非スシテ  
 國稅タル所得稅ヲ免除セラルル所得ハ市町村稅ヲモ免除スヘキモノナリトノ  
 精神ニ出テタルニ外ナラサルヘク而シテ明治二十年所得稅法ハ已ニ廢止セラ  
 レ之ニ代リタル現行所得稅法第五條ニ於テハ一軍人從軍中ニ係ル俸給ニ扶助  
 料及傷痍疾病者ノ恩給三旅費學資金及法定扶養料四營利ノ目的トセザル法人  
 ノ所得五營利ノ事業ニ屬セザル一時ノ所得六外國又ハ同法ヲ施行セザル地ニ  
 於ケル資産營業又ハ職業ニ依ル所得但シ同法施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所  
 得ヲ除ク七同法ニ依リ所得稅ヲ課セザレタル法人ヨリ受タル配當金及割賦賞  
 與金ニハ所得稅ヲ課セザルコトヲ規定セルカ故ニ今日ニ於テハ市町村稅免除  
 ノ範圍ハ所得稅法第五條ニ掲ケル總テノ所得ニ及ブモノナリトイフヘキカ如  
 シ

二 政府府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地營造物

縣入道ノ家屋ノ器ノ其農田ノ山林又ハ葦藪畑ノ湖池等ノ營造物ハ茲ニ  
 政府府縣郡市町村及公共組合ニ屬スルコト及直接ノ公用ニ供セララルコトヲ  
 要件トス公共組合トハ領土權ヲ有セザル公共團體ヲ謂フモノニシテ總テノ公  
 共團體ヨリ地方團體ヲ除キタルモノ即チ吾人カ狹義ノ公共團體ト稱シタルモ  
 ノト同一ナリ例ヘハ水利組合商業會議所等ノ如シ屬スルトハ單ニ使用セラ  
 ルトイフ意味ニ非スシテ所有ニ屬スルコトヲ意味ス故ニ例ヘハ商業會議所ニ  
 於テ他人ノ土地ヲ借受ク其上ニ會議場ヲ設立セル場合ニハ其土地ハ免稅スヘ  
 キモノニ非サルナリ公用ニ供セララルトハ廣ク公衆ノ使用ニ供セララルカ又  
 ハ政府其他ニ於テ私人タルノ資格ニ於テモシテ其事業ヲ行フカ爲ニ用ナ  
 ルルコトヲ謂フ而シテ其公用ニ供セララルコトヲ直接ナルヲ要ス故ニ道路ノ  
 敷地博物館郵便局其他官衙役場等ノ敷地建築物ハ免稅スヘキモノナレトモ單ニ  
 官衙職員ノ住居ノ爲メニ供スル官舎ノ如キハ免稅スヘキモノニ非ナリ

三 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝美術及慈善ノ用ニ供スル土地營

造物及家屋

社寺及官立、公立ノ學校、病院、其他公私ノ間ハス學藝、美術及慈善ノ用ニ直接ニ供  
モラルルコトヲ要件トス法文ニハ明ニ直接供用ノ文字ナケレトモ法ヲ精神ハ  
此事實ヲ必要トスルコト論ヲ待タス故ニ例ヘハ社寺ノ建物中ニテモ神像、佛櫃  
其他社寺其者ノ用ニ供セラルル部分ハ免稅スヘキモノナレトモ神官、住職ノ住  
居ニ供スル部分ノ如キハ免稅スヘキモノニ非ス又此處ニ掲タル土地營造物及  
家屋ハ其何人ノ所有ニ屬スルヤヲ問ハサルカ故ニ社寺ニ於テ他人ノ土地ヲ借  
受ケ其上ニ建物ヲ設クル場合及政府、公共團體又ハ私人ニ於テ他人ノ土地ノ上  
ニ慈善、學藝等ニ關スル家屋ヲ設クル場合ニ在リテモ其土地ハ免稅スヘキモノ  
トス

四 官有ノ山林又ハ荒蕪地

但シ市町村ニ於テ官有山林又ハ荒蕪地ノ利益トナルヘキ事業ヲ起シ内務、大藏  
兩大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ山林又ハ荒蕪地ノ所有者ヨリ徵收スルハ差支ナ  
キモノトス

右ノ外新開地及開墾地ハ市町村條例ノ規定ニ依リ年月ヲ限リ免稅スルコトヲ  
得  
以上述ヘタルモノノ外市町村稅ヲ免除スルモノハ開シテハ別段ノ法律勅令  
ヲ以テ定ムヘキモノトシ但シ其費用夫役モ亦ハ金圓其費用ノ公認トシ、對人附  
夫役現品トハ租稅ノ如ク人民ヨリ金錢ヲ徵收スルニ非スシテ直接ニ勞役及物  
品ヲ徵收スルモノヲ謂フ市町村ニ於テ公共工事ヲ行ツカ爲ニハ勞役及物品ヲ  
要スルハ論ヲ待タス而シテ場合ニ依リテハ人民ヨリ租稅ヲ徵收シ之ヲ以テ勞  
役物品ヲ購フヨリモ租稅ニ代ヘテ直接ニ勞役又ハ物品ヲ徵收スルコトハ人民  
ノ爲ニ便利ナルコトアリ又非常天災等急迫ノ場合ニハ市町村ニ於テ金錢ヨリ  
モ寧ロ勞役物品其モノヲ必要トスルコトアリ是レ法カ特ニ夫役現品ノ制ヲ認  
ムタル所以ナリ而シテ市町村ニ於テ工事其他ノ場合ニ必要トズル勞役ハ一定  
ノ金錢ヲ以テ購ヒ得ヘキ普通ノ勞役ニ過キサルカ故ニ學藝、美術及手工ニ關ス  
ル勞役ヲ夫役トシテ課スルコトヲ得ズ夫役現品ハ又急迫ノ場合ニ於ケルモノ  
ヲ除ク外ハ市町村稅ノ代納方法ニ過キサルカ故ニ直接市町村稅ヲ率率トシ且

金額ニ算出シテ賦課スルヲ要シ市町村税ノ準率ニ依ラズシテ賦課アナナント  
 スルトキハ市ニ在ラハ府縣參事會町村ニ在ラハ郡參事會ノ許可ヲ受タルコト  
 ヲ要ス夫役ヲ課セラレタル者ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得其他何レノ場  
 合ニ於テハ夫役ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ相當ノ代人ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ  
 得  
 凡市制町村制ニ規定セル條項ヲ除外使用料手數料特別税及従前ヨリ存在セ  
 ル區町村費ノ細則ハ市町村條例ヲ以テ之ヲ規定スルヲ要シ其條例ニハ料科ニ  
 關九十五錢以下ノ罰則ヲ設タルヲ得而シテ料科ニ處シ及之ヲ徵收スルハ市參  
 事會町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ合狀交付後十四日以内ニ司法裁判  
 所ニ出訴スルコトヲ得  
 以上舉ケタル手數料使用料租稅夫役ニ代フル金圓其他總テ公法上ノ收入例ハ  
 一學校ノ授業料道路ノ使用料ノ如ク定期内ニ納メタル者アルトキハ市參事  
 會町村長ハ之ヲ督促シ猶ホ之ヲ完納セザルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之  
 ヲ徵收ス其督促ヲナス場合ニハ市町村條例ノ規定ニ依リ督促手數料ヲ徵收ス

ルコトヲ得此場合ニ於ケル手數料ハ其名ハ手數料ナリト雖モ報償ノ性質ヲ有  
 スル莫ノ手數料ニ非ズシテ實ハ行政上ノ強制手段タルナリ如斯ク督促手數料  
 ナルモノハ莫ノ手數料ニ非ザルノ結果トシテ其金額ハ手數料ノ場合ニ於ケル  
 カ如ク其手數ノ多少ニ比例スルヲ要セス例ハ數回ノ督促ヲ行フ場合ニ於テ  
 市町村ノ手數ハ毎回相同シキニ拘ラス督促手數料ノ額ハ漸次之ヲ増加スルモ  
 毫モ其性質ニ反スルコトアラザルナリ納稅者中無資力ナル者アルトキハ市參  
 事會町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ  
 越ユル場合ニ於テハ市町村會ノ議決ニ依ルヲ要ス尙ホ此處ニ掲ケタル徵收金  
 ノ追徵期滿得免及先取特權ニ付ラハ國稅ニ關スル規則ヲ適用スルモノトス市  
 町村税ノ賦課及市町村營造物ノ使用權ニ關シテ不服アル者ハ營造物使用料ニ關  
 スル不服ノ場合ヲモ含ム市ニ在ラハ市參事會ニ訴願シ猶ホ不服アレハ府縣參  
 事會ニ訴願シ而シテ其裁決ニ不服ニシテ且權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ  
 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得町村ニ在ラハ町村長ニ訴願シ猶ホ不服アレハ  
 郡參事會ニ訴願シ猶ホ不服ナレハ府縣參事會ニ訴願シ而シテ其裁決ニ不服ニ



シテ且權利ヲ侵害セラルルコトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得而シテ市町村税賦課ニ關スル訴訟ハ賦課令狀ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ申訴事會町村長ニ申立アルヲ要シ此期限ヲ經過スルコトキハ其年度内減税免稅及償還ヲ請求スル權利ヲ失フモノトス又總テ此處ニ掲ケタル訴訟及行政訴訟ニ付テハ之カ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セサルモノトス茲ニ注意スベキハ市町村税ノ滞納處分及市町村ノ手数料ノ賦課ニ關シテハ訴訟及行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題はナリ市制町村制ニ於テハ市町村税ノ賦課及營造物ノ使用權ニ關シテハ特ニ訴訟訴訟ヲ許スノ規定ヲ設ケルニ拘ラス市町村税ノ滞納處分及市町村ノ手数料賦課ニ關スル訴訟訴訟ニ付テハ何等ノ規定ヲ設ケス然ルニ訴訟及行政訴訟ニ關シテハ一般法タル訴訟法及明治二十三年法律第百六號ニ於テハ租稅及手数料ノ賦課行政訴訟ニ關シテハ海關稅ヲ除ク並ニ租稅滞納處分ニ付テ廣ク訴訟及行政訴訟ヲ提起スルコトヲ許シ居レカ故ニ市町村税ノ滞納處分及市町村手数料ノ賦課ニ付テモ右ノ一般法ニ依リ訴訟訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘシト論スル者アリ吾人ハ此說ニ同意スル能ハス訴訟法及明治二十

三年法律第百六號ニ於テハ廣ク訴訟及行政訴訟ヲ許ス事件ヲ列舉スレトモ然レモ法律勅令ニ別段ノ規程アル場合ハ其規程ニ依ルヘキコトヲ明定セリ故ニ市町村ニ於テ賦課スル手数料及市町村税等ニ關スル事件ハ總令右ノ一般法ニ於テ訴訟訴訟ヲ許セル事件ニ包含セラレルモノトスルモ特別法タル市制町村制ニ於テ之ニ關スル訴訟訴訟ヲ許サストスル場合ニハ勿論此特別規程ニ從ハサルヘカラス然ルニ市制町村制ニ於テハ市町村行政ノ全體ニ通シテ訴訟訴訟ヲ許スノ事件ヲ特ニ列舉スルノ主義ニ依リ市町村會議員ノ選舉ニ關スルコト市町村吏員ノ給料給與及退職料ニ關スルコト市町村税ノ賦課ニ關スルコト市町村營造物ノ使用權ニ關スルコト等ニ付テハ明ニ訴訟訴訟ヲ許スコトヲ規定スルニ拘ラス市町村税ノ滞納處分及手数料ニ關シテハ何等ノ規定ヲ設ケサルヲ以テ見レハ市制町村制ノ精神ハ此等ノ事項ニ付テハ訴訟訴訟ヲ許ササルニ在リトイハサルヘカラス故ニ結局此等ノ事項ニ關シテハ訴訟及行政訴訟ヲ提起スルノ途ナシトイフヲ正當トス勿論人民ノ權利ヲ保護スル止ヨリイハル右ノ事項ニ關シテモ救濟ノ途ヲ與フルヲ良シトスヘク從テ市制町村制ニ之ヲ規定

此ルカ如キハ吾人ノ希望スル所ナリト雖モ現行ノ法規ヲ曲解シテ強ク救濟方  
 法ヲ認メシトスルカ如キハ不可ナリ行政裁判所並ニ内務當局者ノ解釋モ亦右  
 ノ事項ニ付テハ一般法ニ依リ訴訟訴訟ヲ提起シ得ヘシトイフニ在ルモノノ如  
 キモ吾人ハ如斯キ解釋ハ畢竟市制町村制ノ規定ノ不備ニ基ク結果ヲ避ケンカ  
 爲ニ強テ辯ヲナスモノニシテ決シテ法ノ正解ニ非サルコトヲ斷言スルニ躊躇  
 セズ  
 市町村ノ收入ノ第四ハ公債是ナリ市町村ニ於テハ舊債元額ヲ償還スル爲メ又  
 ハ天災地變等已ムヲ得ナル支出若ハ市町村永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要ス  
 ルニ當リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ市町村住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ於  
 テ公債ヲ募集スルコトヲ得市町村會ニ於テ公債募集ノコトヲ議決スルトキハ  
 併セテ其募集ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘキモノニシテ償還ノ初  
 期ハ三年以内トシ年年償還ノ割合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スル  
 ヲ本則トシ此例ニ違フモノハ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルヘカラス  
 且公債ハ元來將來ニ負擔ヲ殘スモノニシテ市町村財政上頗ル考慮ヲ要スル間

題タルヲ以テ償還期限三年以内ノモノヲ外ハ新ニ起債スル場合ト負債ノ金額  
 ヲ増加スル場合トヲ問ハズ總テ内務大臣ノ許可ヲ受ケルヲ要ス茲ニ償  
 還期限三年以内ノモノト謂フハ市町村ニ於テ三年以内ニ償還ヲナスヘキ比較  
 的正確ナル見積ヲ立テ起債スル場合ヲ指スモノニシテ初メヨリ三年以内ニ  
 償還ヲ了スルノ用途ナキモ許可ヲ受ケルノ手續ヲ避ケンカ爲ニ表面償還期限  
 ヲ三年以内トシ期限到來ニシテ更ニ同一ノ期限ヲ更新シ以テ實際多年ニ亘リ  
 テ起債ヲナスモノノ如キハ所謂三年以内ノ公債ト稱スヘキニ非ズ此等ハ其三  
 年以上ニ亘ラントスル場合ニ於テ正式ニ許可ヲ受ケヘキモノトス其他市町村  
 ニ於テハ定額豫算内ノ支出ヲナスカ爲メ必要ナル場合ニ於テ一時借入金ヲナ  
 スコトヲ得此レハ年度内ニ收入セラルヘキモノカ或時期ニ於テ未タ收納セラ  
 レタルカ爲メ支出ヲナス能ハサルニ不便ヲ避ケンカ爲メ時ニ融通方法ニ據  
 キスシテ追テ年度内ノ收入ヲ以テ償還ヲ了スルモノナカ故ニ公債ニ關ス  
 ル例ニ依ラス市町村隨意ニ之ヲナシ得ルモノトス所謂公債トハ市町村會  
 次ニ市町村有財産ノ管理ニ付テ違フレハ凡市町村有財産ハ全市町村ノ利益ヲ



爲ニ之ヲ管理シ且之ヲ使用スル場合ニハ市町村住民ハ共同ニ權ニ之ヲ使用權ヲ有スルヲ本則トス但シ此處ニ述フ所使用權トハ所謂公法上ノ使用權ヲ指スモノナルカ故ニ若シ特ニ其財産ニ對シテ民法上ノ權利ヲ有スル者アルトハ其權利ハ右ノ使用權ノ爲ニ妨ケララルルコトナキハ勿論ナリトス其他舊來ノ慣行ニ依リ市町村住民中特ニ其市町村有ノ土地物件ヲ使用スル公法上ノ權利ヲ有スル者アルトキ市町村住民カ皆共同ニ權ニ使用權ヲ有スルノ原則ニ反シ或入ノミカ特ニ優等ノ使用權ヲ有スル場合ハ市町村會ノ議決ヲ經ルニ非ツレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得サルモノトス又市町村住民中特ニ其市町村有ノ土地物件ヲ使用スル公法上ノ權利即チ優等ノ使用權ヲ得ントスル者アルトキハ市町村條例ノ規定スル所ニ從ヒ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料ト加入金トヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可スルコトヲ得舊來ノ慣行ニ依リ並ニ市町村ノ許可ニ依リテ特ニ優等ナル使用權ヲ有スル者ハ其使用ノ多寡ニ應シテ其土地物件ニ係ル必要ナル費用即チ保存修繕等ノ費用ヲ分擔スルキモノトス市町村會ハ市町村ノ爲ニ必要ナル場合ニ於テハ舊來ノ慣行ニ依リ又ハ市町村ノ許

規定ナリ申立スル事由ハ競賣ノ手續ニ關スル軌道處ノ處分ノ不當ナルコトヲ主張スルコト之ナリ其如何ナル場合ナルカハ既ニ一ノ陳ハタル所ヲ参照セラルヘシ

第二 異議ノ裁判

- (甲) 裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ形式ニ付テハ本法ニ別段ノ規定ナキカ故ニ非訟事件手續法ニ依テ決スルコトトス
- (乙) 裁判ノ通知ハ異議ノ裁判ハ申立入ニ之ヲ通知スルコトトス(第十七條第二項)
- (丙) 裁判ノ效力ハ左ノ如シ(第三條)
- (イ) 異議ノ裁判所ニ對シテハ不服申立ヲ爲スルコト不得(第十七條第二項)
- (ロ) 異議ノ裁判ハ之ヲ以テ善意ノ競賣人ニ對抗スルコト不得(第十七條第三項)前陳ハタルカ如ク異議ノ申立スルハ其裁判所ハ競賣ノ停止ヲ命ズルコトヲ得ルニ元則トスモ停止ニ因リテ著ク其損害ヲ生ズル虞アルトキ

競賣法 勸業ノ競賣 異議ノ申立

ハ例外トシテ之ヲ命令セサルベク此場合ニ於テハ競賣ノ手續ハ異議ノ申立ニ拘ラテス進行スルガ故ニ遺ニ競落ヲ見ルモ至ルロトアルベク若シ此競落人ニシテ毫モ異議ノ申立ヲ知ラザリシニ於テハ所謂善意ノ競落人後日競賣ヲ取消ス旨ノ裁判アリ得モ物ノ所有者ヨリ此競落人ニ對シ物ヲ返還等ヲ請求スルモトテ許サズ(第十七條第三項)

二然レトモ之ニ反シテ競落人カ競買申込ノ當時既ニ異議ノ申立ノアルコトヲ知リ居リシ場合雖モ所謂善意ノ競落人タルニ於テハ後日裁判ニ依リ競賣手續取消セラレタルトキ物ノ所有者ヨリ此者ニ對シ物ノ返還ヲ求め得ヘキモノトス(第十七條第三項)

### 第四節 競賣手續ノ停止

第一 停止ヲ命令シ得ヘキ場合ハ其裁判ハ該場合ニ於テハ後日裁判ニ依リ競賣手續取消セラレタルトキ物ノ所有者ヨリ此者ニ對シ物ノ返還ヲ求め得ヘキモノトス(第十七條第三項)

競賣手續ニ於ケル執達吏ノ處分ニ對シ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所競賣ノ停止ヲ命スルコトヲ得ヘク又之ヲ命スルヲ以テ相當トス然レトモ停止スルトキハ日時遷延爲メニ物ノ腐敗ヲ來スカ如キ著シキ損害ヲ生スル虞アリトキハ停止ヲ命シ得ヘカトスルモノトス(第十八條)

(乙) 目的物ニ關シテ訴入提起アリタル場合ハ其裁判所正百十十(第三十三條) 第三者カ競賣ノ目的物ニ關シテ訴入提起シタルコトヲ證明シタルトキハ執達吏ハ其競賣ヲ停止スルコトヲ要シ唯之ヲ停止セハ物ノ保管ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ又ハ運滞ノ爲メ著シク物ノ價格ヲ減少スル虞アルトキニ限リ執達吏ハ競賣ヲ續行シテ買得金ヲ供託スルコトヲ得ルモノトス(第九條) 而シテ執達吏ニ於テ競賣ノ續行ヲ要スルモノト認メテ競賣手續ヲ續行スルノ當否ニ關シテハ利害關係人ニ於テ裁判所ニ異議ヲ申立テ得ヘキモノト信ス(第十七條)

### 參照

第二 停止ノ場合ニ於ケル執達吏ノ義務  
前條二箇ノ場合ニ於テ競賣ヲ停止シタルトキハ執達吏ハ相當ノ方法ヲ以テ競

買ノ目的物ヲ保管スルコトヲ要ス但此場合ニ於ケル競賣手續及ヒ保管ノ費用  
ハ委任者之ヲ負擔スヘキモノトス(第二〇條)

### 第五節 代金支拂、配當ノ手續並ニ計算書ノ作成

第一項 代金ノ支拂、債權者ノ委任ニ依リ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ債務者ハ現金ヲ以テ代價ヲ提供  
スルニ非サレハ其競買ノ申込ヲ爲スヲ得サルコトハ第四條第二項ノ定ムル所  
ナレトモ其他別ニ代金支拂ニ關シテハ法律ニ制限ナキヲ故ニ委任者ハ代金支  
拂ニ關シ其時期等ヲ定ムルコトヲ得ヘキモノトス第七條參照  
然レトモ若シ委任者カ之ヲ定メザリシトキハ民事訴訟法第五百七十七條第三  
項ノ規定ニ依ルヘク從テ最高價競買人ハ競賣期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲  
シテ物ノ引渡ヲ求ムヘキモノニシテ若シ之ニ從ハサルトキハ更ニ其物ヲ競買  
スヘク此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルヲ得ス且再度ノ競落  
代價カ最初ノ競落代價ヨリモ低キトキハ其不足ヲ擔任スヘク萬キトキハ剩餘

ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス(第七條末項)

第二項 配當手續  
執達吏ハ競賣ノ完結後賣得金ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金及ヒ競落キ  
タリシ物ハ運滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付シ又ハ之ヲ供託スルコトヲ要ス  
(第一五條)

競賣ノ費用トハ競賣委任ノ費用、執達吏ノ手数料鑑定人ノ評價料等競賣手續ノ  
實行ニ必要ナル費用ヲ謂フ尙ホ前ニ不動産ノ競賣ニ付キ陳ヘタル所ヲ參照ス  
ヘシ(本講義第三章第十七節)

右費用ヲ控除シタル殘額ハ運滞ナク之ヲ受取ルヘキモノニ交付スヘク之ヲ交  
付スル能ハサル場合ニ於テハ其者ノ爲メニ之ヲ供託スヘキモノトス此金額ヲ  
受取ルヘキ者ノ何人ナルヲ殊ニ債權ノ辨濟ヲ得シカ爲メ物上擔保權ニ基キ債  
權者カ競賣ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ其者ノ受取ヘキ金額ハ幾何ナリキ等  
ノ事ハ民法、商法等實體法ノ規定ニ從テ決スヘキモノトス申立マシヨイテ得  
但執達吏ノ爲シタル配當手續ニ對シ利害關係人中ニ不服アリトキト雖モ此手

競買法

競買ノ法律ニ代金支拂、配當ノ手續並ニ計算書ノ作成

續ニ付テハ執達吏所屬ノ裁判所ニ異議ヲ申立テ爲ス可キヲ得ヘカヲ如何ト  
 レハ競買ニ付キ利害關係人ハ執達吏ニ處分ニ付キ異議ヲ申立ツルコトヲ得ル  
 ハ競買ノ完結ニ至ルニテハ限リ(第一七條)競買ノ完結ニ依テ完結手續モノニ  
 テ競買ノ完結ヲテ語ハ賣却手續ノ完結ヲ指シ其中ニ代金ノ配當手續モ如前  
 ナ包含セザルモノナルコトハ第十五條ニ執達吏ハ競買ノ完結後云云ヲ以テ  
 アルニ依リ之ヲ認ムル不得ヘシトモ云々(第一八條)ハテハニテ付スヘ  
 隨テ代金ノ配當ニ付キ異議アル者ハ別ニ訴テ以テ其請求例ヘハ不當利得ノ償  
 還ノ請求ノ如キヲ主張スルコトヲ要スルモノハ競買ニ付テ期ヘシテ  
 向キ債權ノ辨濟ヲ受ケンク爲メ物上擔保權優先取特權等ノ權利競買者申  
 立テタル場合ニ於テハ執達吏ハ賣得金中ヨリ費用額ヲ控除セル殘額ヲ民法實  
 體法ノ定ムル順位ニ從ヒ是等ノ債權者ニ配當スベク剩餘ノ物上所有者ニ  
 之ヲ交付スベキモノナラズ(第一九條)中ニテ競買ノ完結ニ依リテ其賣得金  
 其他民法第四百九十七條ノ場合ニ於テハ賣得金ハ之ヲ債權者ノ爲メニ供託ス  
 ヘク非訟事件手續法第五十八條ニ依リ不在者ノ財産ヲ競買スル場合ニ於テハ

賣得金ハ之ヲ不在者ノ爲メニ供託スヘク民法第一千三十四條ノ場合ニ於テハ限  
 定承認者ニ賣得金ヲ交付スヘク商法第二百八十六條ノ場合ニ於テハ買主ノ爲  
 メニ賣得金ヲ供託スル等各場合ニ付キ實體法ノ定ムル所ニ從テ處置スルコト  
 ヲ要ス

第三 計算書ノ作成

執達吏ハ競買ニ付キ正副二通ノ計算書ヲ作り其正本ハ計算ニ關スル證明書ト  
 共ニ之ヲ委任者ニ交付シ其副本ハ之ヲ競買調書ニ添附シテ保存スヘキモノト  
 ス(第一六條)

五

競 賣 法 終

法政大學發行

競買法

動産ノ競買、代金支拂、配當ノ手續並ニ計算書ノ作成

第三節 競賣手続ニ於ケル利害關係人ノ中ノ利害關係人ノ四ノ不動產上ノ權利  
 一、其權利ヲ證明シタル者ノ中ニ登記簿ニ登記ナキ先取特權者ヲ加フ  
 二、其權利ヲ證明シタル者ノ中ニ登記簿ニ登記ナキ先取特權者ヲ加フ  
 三、其權利ヲ證明シタル者ノ中ニ登記簿ニ登記ナキ先取特權者ヲ加フ  
 四、其權利ヲ證明シタル者ノ中ニ登記簿ニ登記ナキ先取特權者ヲ加フ

正 誤

第三節 競賣手続ニ於ケル利害關係人ノ中ノ利害關係人ノ四ノ不動產上ノ權利  
 一、其權利ヲ證明シタル者ノ中ニ登記簿ニ登記ナキ先取特權者ヲ加フ  
 二、其權利ヲ證明シタル者ノ中ニ登記簿ニ登記ナキ先取特權者ヲ加フ  
 三、其權利ヲ證明シタル者ノ中ニ登記簿ニ登記ナキ先取特權者ヲ加フ  
 四、其權利ヲ證明シタル者ノ中ニ登記簿ニ登記ナキ先取特權者ヲ加フ

(特別法義錄)

法學士 吾孫子 勝 講述

競 賣 法

法政大學發行

# 競賣法目次

第一章 總論	一
第一節 競賣ノ性質	一
第二章 法源	八
第三章 不動産ノ競賣	九
第一節 不動産競賣ノ申立	一〇
第一款 實體法上ノ要件	一三
第二款 形式上ノ要件即チ不動産競賣申立ノ手續	一九
第一項 申立書ニ記載スヘキ事項	一九
第二項 競賣申立書ニ添附スヘキ書類	二八
第二節 競賣手續ノ開始	四二
第一款 一般	四二
第二款 競賣申立ノ却下	四三



競賣目次

二

第三款	競賣手續開始ノ決定	一五二
第四款	競賣開始決定ノ際裁判所ノ爲スヘキ行爲	一六七
第五款	競賣申立ノ取下	一七一
第三款	競賣手續ニ於ケル利害關係人	一七三
第四節	競賣ノ準備手續	一七五
第五節	競賣手續ニ於ケル法律上ノ賣却條件	一八一
第六節	競賣ノ實施	一八三
第七節	入札拂	一九四
第八節	競落期日ノ開始并ニ競賣並ニ競落ノ性質	一九八
第九節	競落許可ニ付テノ異議	一〇四
第十節	競落許可ノ決定	一〇九
第十一節	競落許可ノ決定ニ對スル抗告	一一四
第十二節	競落許可決定ノ效力	一二〇
第十三節	新競賣及ヒ再競賣	一二六

競賣目次

三

第十四節	配當要求	一二九
第十五節	代金支拂並ニ配當實施	一三〇
第十六節	競賣終了ニ關スル登記	一三七
第十七節	競賣ノ費用	一三九
第十八節	競落許可決定ノ效力補遺	一四四
第四章	船舶ノ競賣	一四六
第五章	增價競賣	一四九
第一節	競賣ノ申立	一四九
第二節	擔保ノ許否	一五四
第三節	競賣手續開始決定	一五六
第四節	利害關係人及ヒ競賣準備手續	一五八
第五節	競賣並ニ競落ノ手續	一六二
第六章	動産ノ競賣	一六七
第一節	競賣ノ委任	一六七

### 競賣法目次

終

第一章

第二章

第三章

第四章

第五章

第六章

第二章 換價手續

一七〇

第三章 異議ノ申立

一八五

第四節 競賣手續ノ停止

一八八

第五節 代金支拂配當ノ手續並計算書ノ作成

一九〇

第三節 競賣手續開張時

一九六

第一節 競賣ノ可否

一九四

第二節 競賣ノ申立

一九六

第四章 附置競賣

一九八

第五章 競賣ノ競賣

二〇六

第十八節 競賣時ノ買主ノ決定

二〇四

第十九節 競賣ノ費用

二〇六

第二十節 競賣ノ費用

二〇八

第二十一節 競賣時ノ買主ノ決定

二一〇

第二十二節 競賣時ノ買主ノ決定

二一〇

既ニ發行シタルモノニ付テハ著作者ニ於テ既ニ之ヲ公ニスルノ意思ヲ決定シタルモノナレム之ヲ差押ハ其著作物トシテ生ズル利益ヲ他人ニ取得セシムルモ著作者ノ人格ヲ害スルモノニ非ス故ニ其既ニ公ニシタル著作物ハ普通ノ財産ト同シク之ヲ差押フルコトヲ得ルモノナリ而シテ未發行ノ著作物ニテモ著作者カ差押ヲ承諾シタルトキハ差押ヲ爲シ得ルハ勿論ナリ何トナレハ此規定ハ著作者ノ利益ヲ保護スルヲ目的トスルモノナレバ著作者ニシテ其利益ヲ拋棄スルトキハ最早之ヲ保護スル必要ナクハナリトモイハルヲ著者人ハ著作者ノ著作權ノ讓渡ハ何等制限ヲ付セザル場合ニハ著作權ノ繼續スル間讓受人ニ於テ其權利ヲ享有スヘキモノナリ故ニ我著作權法ニ從ヘハ著作權ハ著作者ノ終身及ヒ死後三十年間繼續スルヲ以テ著作權讓受人ハ此期間著作物ヲ發行シテ利益ヲ專有スルノ權利ヲ有シ而シテ此權利ハ普通ノ財産權ナルヲ以テ讓受人死亡ノ場合ニハ他ノ財産ト共ニ相続人ニ移轉スヘキモノナリ此原則ハ各國著作權法ノ認ムル所ナルモ獨リ西班牙著作權法並ニドイツニテ著作權法ニ於テハ讓受人ノ權利ニ制限ヲ付シ全部讓渡ヲ場合ニ於テモ讓受人ノ權利ハ著作者ノ





又其著作物發行ノ權利ハ著作者並ニ其子孫ノ獨占スルモノタルカ故ニ非常ノ高價ヲ以テ之ヲ販賣シ爲メニ一般公衆ハ容易ニ其利益ヲ受タル能ハス是レ豈ニ學問美術ヲ獎勵發達セシムルノ途ナランヤ國家ハ有益ナル著作物ヲ創作發行ヲ促スト同時ニ世間一般ノ人ヲシテ容易ニ斯ル著作物ヲ得ルヲ途ヲ開カサルハカラハ是レ實ニ一國ノ學問美術ヲ進歩文明ヲ裨補スル所以ナリ是レ諸國ノ著作權法ニ於テ一定ノ期間著作者並ニ其子孫ニ其著作物ヨリ生スル利益ヲ專有スルノ權ヲ與ヘテ著作者ノ努力ニ酬イ又一面公衆ヲシテ其著作物ノ利益ヲ受ケシメシムルノ規定ヲ設ケル所以ナリ

此ノ如ク諸國ノ著作權法ハ多クハ著作權保護ノ期間ヲ限定スト雖モ其期間ハ一定セズ其最モ長キハ西班牙著作權法ニシテ著作者ノ死後八十年ヲ繼續ス其最モ短キハ英國著作權法ニシテ著作物發行之日ヨリ二十八年若クハ著作者ノ死後七年ニシテ消滅ス

我著作權法ハ歐洲諸國ノ法律ヲ參照シ著作權ノ期間ハ著作者ノ終身及ヒ死後

三十年間繼續ストモ第三條之ヲ要スルニ著作權ノ保護ニ期間ヲ付スルハ著作者ノ權利ト社會ノ利益トヲ調和スルノ趣旨ニ出テタルモノニシテ一面著作者ノ努力ニ酬インカ爲メニ一定ノ年限間著作者ニ其著作物ヨリ生スル利益ヲ專有スルノ權ヲ與ヘ一面社會ノ公益上有益ナル著作物ヲ發行スルノ利益ヲ一人ニ壟斷セシムルノ弊ヲ防カンカ爲メ法定ノ期間經過ノ後ハ世間一般ノ人ヲシテ廣ク之ヲ發行スルノ自由ヲ認メタルナリ

著作權ノ期間ハ財產權ニ關スル部分ニ付テリミカレ換言スレバ著作物ヲ發行シテ利益ヲ專有スル權利ノミカ一定ノ期間ノ經過ニ因リテ消滅スルナリ故ニ思想維持權ハ期間經過後ト雖モ猶ホ存續スルモノト謂ハサルヘカラス即チ世間一般ノ者ハ期間經過後ハ自由ニ他人ノ著作物ヲ複製スルコトヲ得ト雖モ其著作物ノ内容ヲ變更改竄シ又ハ著作者ノ氏名稱號ヲ變更シテ之ヲ發行スルコトヲ得ス著作權法第四十一條ハ此趣旨ヲ明言セリ曰ク

著作權ノ消滅シタル著作物雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若シ著作者ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行

シタル者ハ二十箇以上二百箇以下ノ罰金ニ處ス人ハ著作權ノ保護期間ニ於テ  
 蓋シ著作ノ權利ハ必スシモ單ニ財産上ノモノノミニ非スシテ著作ノ名譽  
 權モ亦之ニ包含スルモノナルコトハ前述セシカ如シ然ルニ本條ノ如キ規定ナ  
 キトキハ法定ノ期間ノ經過ニ因リ著作權ノ公有ニ歸シタルトキハ何人モ隨意  
 ニ之ヲ複製スルコトヲ得ト信シ著作物ノ内容ヲ變更シ又ハ著作者ノ氏名稱號  
 ヲ變更シテ發行スル者アルヘキヲ以テ之ヲ制裁センカ爲メニ斯ル規定ヲ設ケ  
 タルナリ若シ斯ル規定ナキトキハ著作者ノ思想維持權ヲ保護スルニ由ナキナ  
 リ斯ル規定ノ結果トシテ予ハ著作權ノ財産權ニ關スル部分ハ一定ノ期間ノ經  
 過ニ因リテ消滅スルモ思想維持權ハ永久ニ存続スト解スルナリ  
 著作權ノ保護ニ期間ヲ付スルハ著作權ノ性質上然ルモノナリト論スル學者ア  
 リ其說ニ曰ク諸國ノ法則カ著作權ノ永久存続ヲ否認シ其期間ヲ限定セル所以  
 ハ著作者ノ死亡ト共ニ著作物カ著作者ノ人格的貨物タル關係ノ消滅ニ起因ス  
 ルモノナリ即チ著作者ト著作物トノ關係ハ著作者ノ生命ヲ限トシテ消滅スル  
 モノナルカ故ニ著作權ハ原則上著作者ノ終身間存続スヘキモノニシテ著作者

ノ死亡ニ因リ其保護モ亦消滅スヘキモノナリ唯其保護ニシテ著作者ノ死亡ト  
 共ニ消滅スヘキモノトスルコトキハ其保護期間ノ不確定ナルカ爲メ著作物ノ價  
 値ヲ減損シ學藝美術ノ發達ヲ妨タルニ至ルヘキヲ以テ著作者ノ死亡後猶ホ一  
 定ノ期間其相続人及ヒ承繼人ヲシテ其保護ヲ享有セシメ然ル後始メテ一般公  
 有ニ歸セシムルモノトセルナリト即チ此說ハ著作權ハ人格權ナルヲ以テ其人  
 ノ死亡ト共ニ消滅スヘキモノナリト云フニ在リ予ハ著作權ハ單ニ人格權ナリ  
 ト認メス一面ニ於テハ普通財産權ナリト信スルカ故ニ此說ニ贊成スルコト能  
 ハス却テ所有權等ト同シク原則トシテハ永久ニ存続スヘキモノナリト信ス唯  
 前述シタル如ク永久ニ此權利ヲ存続セシメ其利益ヲ一人ニ專有セシムルハ公  
 益上不可ナルヲ以テ此權利ノ存続ヲ制限シタルモノナリト信ス諸國ノ法制ニ  
 於テモ必スシモ凡テ著作權ニ期間ヲ附スルニ非ス例ハハ前述シタル如クヘキ  
 シコトゾエチゾエラシクテヤラフ如キハ永久の存続ヲ認メ又其他ノ國ニ於テモ其  
 期間一定セス成ハ著作者ノ死後七年ニシテ消滅ストセルモノアリ或ハ死後八  
 十年ニ及フモノアリ又著作物ノ種類ニ依リテ其期間又異ニス例ハハ普通著作



智利(但政府ハ場合ニ依リ之ヲ十年ニ延長スルコトヲ得)

伊太利ニ於テハ著作權ノ期間ニ關シ特種ノ制度ヲ設ケス即チ同國著作權法ニ依レハ著作權ハ著作者ノ終身間繼續スルモノトシ若シ著作物發行ノ時ヨリ四十年前ニ著作者死亡スルトキハ四十年ヲ繼續シ此期間中ハ何人モ其權利者ノ承諾ナクシテ其著作物ヲ發行スルコトヲ得ズ而シテ此期間ヲ經過スルトキハ何人モ其著作物ヲ發行スルコトヲ得ルモ此期間經過後尙ホ四十年間ハ法律ニ於テ定メタル賠償金ヲ著作者ノ承繼人ニ支拂ハサルヘカラス即チ此法制ニ依レハ著作權ノ期間ヲ二期ニ分チ第一期ノ四十年間ハ著作權ハ全然其著作者竝ニ承繼人ニ屬シ第二期ノ四十年間ハ一定ノ賠償金ヲ支拂フトキハ何人モ之ヲ發行スルコトヲ得ルナリ此制度ヲ佛語ニテ *systeme du domaine public payant*ト云フ而シテ此規定ハ單ニ普通著作物ニノミ限ルモノニシテ演劇脚本及ヒ樂譜ノ興行權ニ關シテハ適用ナシ即チ演劇脚本及ヒ樂譜ノ興行權ハ其著作物ノ最初ノ發行又ハ興行ノ時ヨリ八十年間繼續スルモノトス

和國ニ於テハ著作權ノ期間ハ納本ノ時納本ノ時ヲ以テ發行ノ日ト看做スヨリ

五十年間繼續ス但著作者猶ホ生存スルトキハ其終身間繼續ス演劇脚本及ヒ樂譜ノ興行權ハ印刷ニ由ラテ出版セラレタル場合ニハ著作者ノ死後三十年出版セラレタルドキハ納本ノ日ヨリ十年間繼續スルモノトス

北米合衆國ニ於テハ著作權ハ著作物登錄ハ日ヨリ二十八年間繼續シ其期間經過ノ日ニ猶ホ著作者生存シ又ハ著作者死亡後ニ於テ寡婦又ハ子アルトキハ爾後十四年間繼續ス

我著作權法第三條ニ依レハ著作權保護ニ期間ノ存スルヲ發行又ハ興行シタル著作物ニ限ル換言スレバ世間ニ公ニシタル著作物ニ限ルナリ故ニ未タ公ニセラル著作物即チ著作者カ著作シタルモノ之ヲ管底ニ保存シ未タ發行セサルモノハ其著作權永久ニ存続スルナリ隨テ著作者ノ死後其承繼人ノ許諾ナクシテ之ヲ發行スル者アルトキハ承繼人ハ之ニ對シ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得然ルニ若シ著作權ハ原則上著作者ノ生存間存続スヘキモノナリトノ說ヲ探ルトキハ未刊ノ著作物モ法定期間ノ經過ニ因リテ公有ニ歸スルコトト爲リ世間一般ノ者ハ之ヲ發行シ得ルコトト爲ルナリ然ルニ未刊ノ著作物ハ著作者カ未タ之

又公ニシ世間ニ發表スルノ意思ヲ決定シタルモノニ非カレハ他人カ妄ニ之ヲ發行スルハ著作ノ意思ニ反スルモノニシテ實ニ著作ノ人格權ヲ侵害スルモノナリ故ニ我著作權法ニ於テハ未刊著作物ノ著作權ハ永久ニ存続ストノ主義ヲ採リ唯發行又ハ興行シタル著作物ニ限リ保護ノ期間ヲ定メタルナリ著作權保護ノ期間ハ前述ノ如クナルモ其期間ニ起算點ハ著作物ノ種類又ハ發行ノ方法ニ依リテ異ナル以下之ヲ述ヘン

(一) 合著作物 合著作物ノ著作權ハ合著者中最後ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス(第三條第二項例)ハ甲乙丙三人ノ合著作物ノ著作權ノ期間ハ三人ノ中最後ニ死亡シタル者ヨリ起算シ其死後三十年間存続スルモノトス是レ合著作物ノ著作權ノ保護ヲ完全ニスルノ趣旨ニ出テタルナリ

(二) 遺著 遺著トハ著作者ノ死後發行スル著作物ヲ謂フ斯ル著作物ノ保護期間ニ關シテハ三ノ立法主義アリ(一)遺著ノ權利者著作者ノ相続人又ハ遺著ノ讓受人ヲ著作者ト同一視シ其終身及ヒ死後一定ノ年限間繼續ストスル主義 佛國千八百五十年三月二十二日法律第一條ニテチテ千八百七十九年十月

二十九日命令第九條ハ此主義ヲ採ル(二)遺著ノ著作權ハ之ヲ發行シタル者ニ屬スト爲シ發行ノ時ヨリ起算シ一定ノ期間繼續スト爲シ主義白耳義ニ依リテ智利芬蘭那威ベルギー露西亞瑞西モナコモ此主義ヲ採ル(三)著作者ノ死亡ノ時ヨリ起算シ一定ノ年限間繼續ストスル主義獨逸下捷匈牙利ハ此主義ヲ採ル但匈牙利ニ於テハ著作者ノ死後四十五年ヨリ五十年ノ間ニ發行シタルモノハ發行ノ時ヨリ起算シ五十年間繼續スト爲ス(同國著作權法第一四條)我著作權法ハ第二ノ主義ヲ採リ遺著ノ保護期間ヲ發行又ハ興行シタルトキヨリ三十年トセリ蓋シ第三ノ主義即チ獨逸著作權法等ニテ採ル主義ハ著作權ハ既刊ノモノト未刊ノモノトノ間ハス總テ一定ノ期間ヲ經過シ因リテ公有ニ歸スルモノナリトノ主義ニシテ著作者ノ權利ハ著作者ノ死亡ト共ニ消滅ストノ說ニ基テカランモノナリ此說ハ誤レリト信ス總令著作者ノ死後幾十年ヲ經過スルモ未刊ノ著作物ハ其著作權消滅セズ唯之ヲ公ニシタルトキハ其時ヨリ起算シ一定ノ期間ヲ經過ス因リテ公有ニ歸スルモノトスルヲ正當ナリト信ス又實際ニテ之ヲ觀ルキ著作者カ生前ニ之ヲ發行セズ死後



タル場合ニ爾後三十年若クハ五十年經過スルニキ其著作物ノ著作權ハ消滅スルモノナリ又ハ死後二十五年又ハ四十五年目録發行スルトキハ著作權ハ僅カ五年ニシテ消滅ストスルガ如ク消滅シテ著作權ヲ保護スル途ニ非ス故ニ或ハ匈牙利著作權法ノ如キ規定ヲ設クモ若クハ更ニ進歩ヲ前記第二ノ主義即チ我著作權法ノ主義ヲ採ルモノ以テ正當ナル信譽ヲ減損スル者無名又ハ變名著作物ノ無名著作物トハ其著作物ニ著作權者姓名ヲ掲ケズシテ發行スルモノヲ謂ヒ變名著作物トハ著作權者ノ實名ヲ以テセズ假名ヲ付シテ發行スルモノヲ謂ヒ無名著作物ノ保護期間ノ計算ニ關シテハ二ノ主義アリ(一)發行ノ時ヨリ計算シ發行者ニ一定ノ期間保護ヲ與フル主義獨逸埃太利丁抹芬蘭匈牙利那威ハ此主義ヲ採ル(二)發行者ヲ著作權者ト看做シ其身及ヒ死後一定ノ期間繼續ストスル主義白耳義ニヨリ於テハ此主義ヲ採ル西班牙ニテハ(一)ノ主義ニモナリ(二)ノ主義ニテハ南米諸國ハ此主義ヲ採ル佛國ニ於テハ法ノ明文ニ何等規定ナシ同國ニ解釋上此主義ヲ採ル我著作權法ハ第一ノ主義ヲ採ル無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ與

行ノトキヨリ起算シ三十年間繼續ストモハ第五條ニ於テ其期間内ニ著作權者カ其實名ヲ顯ハシ實名ノ登錄ヲ受ケタラバキハ最早無名又ハ變名著作物ニ非サルカ故ニ普通ノ計算方ニ依リ著作權者ノ終身及ヒ死後三十年間繼續ストモト爲ルナリ(第五條但書)又ハ(四)ノ主義ニ於テハ其團體ノ全體ニ著作權ヲ發行スルコトアリ例ヘテ帝國大學ノ出版物某某會社ノ名義ヲ以テ出版スル著作物ノ如キ是ナリ此等ノ著作權者ノ期間ハ自然ノ如ク著作權者ノ生存死亡等ニ依リ定ムルコトヲ得サルハ故ニ其期間ノ計算方法ヲ他ニ求メタルヘカラス佛國西班牙ニテハ(一)ノ主義ニ於テハ斯ル著作物ノ著作權ハ永久ニ繼續スルモノト解釋シ法律ニ明ニ明文ナシ獨逸埃太利匈牙利那威葡萄牙露西亞瑞典西ニ於テハ發行ノ時又ハ納本若クハ登錄ノ時ヨリ起算シテ一定ノ期間ヲ定ム我著作權法ニ於テハ(一)ノ主義ニ依リ發行又ハ與行起算シ三十年間繼續スルモノト爲ル(第六條)又ハ(二)ノ主義ニ依リ發行又ハ與團體ノ著作權ノ保護期間ヲ一箇月又ハ著作權者ノ場合ヲ短縮スル立註例アリ

例ハ「イ」キ「ロ」ニ於テ普通商賣人ニ著作物ノ著作權永久ニ存續スル爲メ拘ハラズ團體ノ著作權ハ二十五年間ニ短縮ス「キ」シヨ「民法第一二六二條」又伊太利ニ於テハ「個人」ノ著作權亦四十年繼續スル爲ス團體ノ著作權ハ發行ノ時ヨリ二十年間ニ消滅ス「同文」日本著作權法ハ「登錄」複印「複印」雜誌其他順次ニ發行スル著作物ニ雜誌「同」冊號又逐々順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ其著作權ノ期間ニ特別ノ規定アリ「著作權法第八條」即チ冊號ヲ逐々順次ニ發行スル著作物「例」雜誌ノ如クハ每冊毎號ヲ以テ「一」ノ完全ナル著作物ト看做シ其著作權ハ每冊毎號發行ノ時ヨリ起算ス之ニ反シ字典講義録ノ如キ一部分ヲ以テ漸次ニ發行シ全部完成シテ始メ「一」巻ノ書「四」爲ス如キ著作物ニ關シテハ各部分毎ニ著作權ノ期間ヲ計算セシ全部完結タル後即チ最終ニ發行シテ時ヨリ期間ヲ計算ス蓋シ此種類ノ著作物ハ全部完結シテ始メ「一」著作物ト成シモ「ナレ」各部分ニ付キ別別ニ著作權ノ期間ヲ計算セザルナリ然レトモ「一」以下ノ部分ヲ數年後ニ發行シ又「一」永久ニ發行セザルコトナキヲ保證スルヲ以テ第八條第二項但書ヲ以テ「三年」

後任者ナキモ兼任者ノ任命アリタルトキハ封印執行ヲ爲スコトヲ得ス兼任者ハ後任者ノ如ク確定ノ前任者ノ職務ヲ繼承スルモノニアラス書類引繼ノ點ヨリ觀察スレハ後任者ノ任命ヲ終期トスル「一」時ノ保管者ニ過キス然レトモ其任期中ハ書類保管ノ責任ニ於テハ之ヲ本任者ニ比シテ輕重アルコトナシ既ニ保管者アリテ授受ノ手續ヲ完了セハ少クとも更ニ書類ノ紛失及濫用等ヲ危懼スルヲ要セス封印ヲ執行スルノ必要ハ全ク存在セザルナリ又役場ヲ廢止スレハ其書類ハ「近隣」ノ公證人ニ引繼カルルヲ以テ封印ノ必要ナキヤ論ヲ埃タサルナリ

此ノ如クニシテ裁判所カ書類ニ付キ施シタル封印ハ全ク其保管ノ目的ニ出ツルモノナルカ故ニ其後ニ於テ保管ノ責任ヲ有スルモノアルニ至ルトキハ封印ノ必要モ亦存セザルニ至ル可シ即チ後任者又ハ兼任者ノ任命アリタルトキハ其任命者ハ職務上封印セラレタル書類ヲ保管ス可キモノナルヲ以テ封印ノ必要消滅ス然レトモ封印ハ「一」形式ナレハ其必要ノ消滅換言スレハ後任者又ハ兼任者ノ任命ニ依リ當然失效ス可キモノニ非ス必ス之ヲ解放ノ手續ヲ履マサ



ル可カラス之ヲ以テ後任者又ハ兼任者ハ管轄地方裁判所ノ官吏ト立會ヒタル上封印ヲ解除シ書類ニ付キ提要目錄ヲ作成シ箇箇ニ點檢シタル後之ヲ受領セラル可カラス而シテ其作成ノ日ヨリ一月以内ニ提要目錄ノ寫一通ヲ管轄地方裁判所ニ差出スコトヲ要シ目錄ヲ作成シテ書類ヲ受領シタルトキヨリ其保管ニ關スル一切ノ責任ヲ負フモノトス

### 第三編 公証人ノ職務

#### 第一章 權限

凡ソ人民相互間ノ平等關係ニ於テ私權ノ得喪ニ關スル法律行為アルトキハ各當事者ハ之ニ因リテ當然ニ民事上若干ノ拘束ヲ受ケ又ハ相手方ニ對シ若干ノ要求力ヲ有スルニ至ル可シト雖モ單ニ其法律行為ノ成立ヲ心理ニノミ止ムルトセンカ社會現象ノ複雜ナル今日ニアリテ約旨微細ニ涉ルトキハ時トシテ遺忘ナキヲ期ス可カラス且ツヤ信用ノ濫用亦多キヲ加フルニ於テハ特ニ書證ニ依リテ其存在ヲ明確ニスルコト甚ク必要ナリ然レトモ其證書タルヤ私人ノ作

成ニノミ係ハリ公力ノ毫モ干與スル所ナキトキハ亦紛争ヲ醸ス虞ナシトセス國家ヨリ之ヲ觀ルモ私署證書ニ對シテ直チニ多大ノ信憑ヲ拂フカ如キハ秩序ノ維持上其當ヲ得タルモノト言フコトヲ得サルナリ於是公証人ヲ置キ民事ニ關スル證書ノ作成ヲ掌ラシメ此公力ノ干與ニ依リ其證書ニ證據力ト執行力トヲ併有セシメタリ公証人ノ作成ニ係ル證書之ヲ公正證書ト稱ス

然レトモ公証人ノ作成シタルモノノミ公正證書タルニ非ラス廣義ニ於テハ苟クモ公吏カ作成シ公力ノ干與シタル證書ナレハ公正證書ト言フヲ妨ケサルナリ例之戶籍吏ノ作成シタル戶籍簿ノ原本又ハ其抄本等ノ如キハ均シク公吏ノ作成シタルモノニシテ公力ノ干與上公証人ノ作成シタルモノト徑庭ナキモノタリ而シテ刑事訴訟法第三百一條ハ再審ノ訴ヲ爲シ得可キ場合ヲ定メ其第三號ニハ「犯罪アル以前ニ作リタル公正證書ヲ以テ當時其場所ニ在ラザリシコトヲ證明シタルトキトアリ同條第五號ニハ「公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキトアリテ此ノ如キ公正證書ハ公証人カ作成シタルモノヨリモ廣義ナルコト疑ヲ容レサルカ故ニ從テ單ニ公正證書ト言フモ

廣狹二義アルコトヲ知ラサル可カラズ  
 公證人ハ公正證書ノ作成ヲ以テ其職務トス證書ノ私署タルト公正タルトハ唯  
 タ其作成ノ形式ヲ異ニスルノミニシテ其内容ニ至リテハ全ク差別ナク公正證  
 書ニ表示シ得キ事項ハ亦私署證書ニ之ヲ表彰シ得キヲ原則トス從テ公證  
 人ハ當事者間ノ法律關係ヲ創設スルモノニ非ス恰モ私署證書カ既ニ成立シタ  
 ル法律關係ノ存在ヲ確保スルカ如ク公正證書ヲ作成シ以テ其存在ヲ明確ニシ  
 法律カ附與シタル效力トシテ何人モ之ヲ否認スル能ハザラシムルモノナリ而  
 シテ公證人ハ裁判官ニ非ラサルカ故ニ既ニ成立シタル法律關係ヲ文書ニ表示  
 シテ其存在ヲ明確ニスルコトヲ得レトモ爭訟ヲ判定シテ書面ニ作成スルコト  
 ヲ得ス從テ私權ノ爭アルニ當リ之カ裁判ヲ爲シ又ハ和解ヲ試ムル職權ナシ裁  
 判官ノ面前ニ出頭スルモノハ權義ノ爭アル當事者ニシテ裁判官ハ之ヲ判斷シ  
 テ裁判ヲ與フルモノナレトモ然カモ箇人間ノ契約ニ公正力ヲ付與スルコトヲ  
 得ス之ニ反シ公證人ハ爭ナキ法律關係ヲ文書ニ表示シテ之ニ公正效アラシム  
 ル職權アレトモ爭訟ヲ裁判シ又和解ヲ試ムルコトヲ得サルモノトス判決和解

及公正證書等ハ共ニ強制執行ニ付キ債務名義タルモノナレトモ其性質上判斷  
 タル判決及和解ハ公證人カ作成スルモノニ非サルナリ  
 公證人ハ囑託當事者間ニ成立スル一切ノ法律關係ニ付キ公正證書ヲ作成スル  
 コトヲ得可シ然レトモ其權限ハ二方面ヨリ制限セラル即チ公證人ハ公正證書  
 ニ因リテ法律關係ノ存在ヲ明確ナラシムルニ止マリ其法律關係ノ適法ナルヤ  
 否ヤハ一ニ實體法ノ規定ヲ缺テ始メテ判定ス可キモノナリ而シテ國家カ之ニ  
 公正效ヲ認ムルハ其證書ニ表示セラレタル法律關係カ適法ナル場合ニ限ルモ  
 ノニシテ根底ニ於テ不法ナル法律關係ハ之ヲ保護スルノ必要ナク亦公證人カ  
 之ヲ公正證書ニ作成シタリトテ其作成ニ依リ一變シテ適法ノモノトナルモノ  
 ニ非サルカ故ニ公證人ハ法律及命令ニ違背シタル事件ニ付キ公正證書ヲ作成  
 スルコトヲ得ス假令之ヲ作成スルモ毫モ公正效ヲ發生セサルモノトシタリ之  
 ヲ其制限ノ一トス又前ニ述ベタルカ如ク公正證書ハ必スシモ公證人ノ作成ス  
 ル書類ノミヲ云フニ非ス國家ハ其事務ノ分配上種種ノ機關ヲ設ケ或種ノ公證  
 書類ハ特別ナル官公吏ニ之ヲ作成スル專權ヲ認メタリ一例ヲ舉ケレハ戶籍吏

カ戸籍謄本ヲ作成スルカ如シ從テ他ノ機關カ公證人ノ職務ヲ行フ能ハサルト共ニ公證人モ其固有ノ權限ヲ踰越シテ他ノ官公吏ニ專屬スル事務ヲ行フコトヲ得ス故ニ公證人ハ汎ク適法ナル法律關係ニ付キ公正證書ヲ作成スルモノナリト雖モ然カモ他ノ官吏ノ作成ス可キ公證書類ヲ作成スル權能ナク假令之ヲ作成スルモ恰モ其資格ナキ點ニ於テハ一私人ト異ルナキヲ以テ何等ノ公正效ヲモ發生セサルナリ之ヲ其制限ノ二トス

凡ソ法律關係ハ公證ノ形式ヲ經ルニ依リ公正效ヲ生ス然レドモ總テハ法律關係カ此形式ヲ經ルコトヲ要件トシテ有效トナルニ非サルナリ尊ロ一般ニ論スレハ多クノ法律關係ハ公正證書ニ表示セララルヲ以テ始メテ有效ナルニ非スシテ表示以前ニ於テ既ニ效力ヲ發生スルモ唯タ將來之ニ付キ紛争アルニ當リ此形式ヲ以テスレハ其存在ヲ沒却セラレサルノ證明力ヲ有スルニ過キサルナリ故ニ此種ノモノニアリテハ公證ノ形式ニ依ルト否トハ全ク當事者ノ任意ナルコト論ヲ埃タス然レドモ特種ノ法律行為ニアリテハ此形式ヲ有效ノ條件トスルコトアリ例之要式行為タル公正證書ニ依ル遺言公證人ニ依ル拒絕證書ノ

作成及確定日附ノ如キ是ナリ遺言ニアリテハ公證人ノ筆記附記及署名捺印ヲ要スルモノトシ拒絕證書ニアリテハ公證人カ法定ノ事項ヲ記載シ之ニ署名ス可キモノトシ他ノモノヲ以テ換フルコトヲ得サルモノト爲シタルカ故ニ此ノ如キハ專屬的公證行為ト言フ可キナリ

公證人ノ職務ハ主トシテ公正證書ノ作成ニアリ其作成ハ主動的ニアラサシテ人民ノ囑託ナクシテ之ヲ作成セズ又一度囑託アレハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得サルナリ然レトモ此點ヨリシテ直チニ公證人ヲ以テ當事者ノ機關ナリト爲スヲ得ス或ハ曰ク公證人ハ人民ノ依頼アルトキハ必ス公正證書ヲ作ラサル可カラス從テ證書作成ノ上ヨリ論スルトキハ全ク當事者ノ一種ノ機關ナリト此議論ヲ誤レリ抑モ公證人ハ公吏ニシテ公正證書ヲ作成スルハ法律ノ命スル職務ヲ執行シ外ナラス人民ノ依頼ハ全ク其職務執行ノ申出タルニ過キサルナリ從テ公證人ハ人民ノ機關ナルカ故ニ證書ヲ作成スルニ非スシテ法律ノ附與シタル職權ニ基キ公務ヲ行フ職責アルカ故ニ之ヲ作成スルモノト云フ可シ若シ然ラズトモシカ機關ハ主體ノ意思ニ拘束セラザルヲ以テ公證人ハ

人民ノ依囑カ不法事項タルトキト雖、向非之ヲ拒絕スル能ハサル可キニ却テ法律ハ正當ノ理由アルトキハ依囑ヲ拒絕シ得ルコトヲ認メ從テ公證人ニ依囑ノ當否ヲ審査スル權限ヲ附與シタリ此ノ如キハ公證人カ人民ニ對シ機關トシテニ非ス公吏タル資格ヲ以テ臨ムノ結果ニシテ恰モ戶籍吏カ身分登記ノ届出ヲ受理スルト其狀態ニ於テ同一ナルナリ殊ニ法律カ其結果タル公正證書ニ公正效ヲ認メタルカ如キハ公證人カ人民ノ機關ニ非スシテ寧ロ國家ノ一機關タル證左タラシムアラズ

公證人ハ人民ノ機關トナスカ否ハ刑事上ノ問題ニ付キ多少ノ影響ヲ有ス即チ當事者カ虛偽ノ陳述ヲ爲シテ公正證書ヲ作成セシメタルトキハ之ヲ公文書偽造罪ニ問擬ス可キヤ否ヤニアリ機關說ニ依レハ公證人ニ作成セシムルト他人ヲ手足トシテ之ヲ作ラシメタルト其機械使シタルハ同一ナレハ依囑者ハ全ク公文書偽造罪ノ責任ヲ免カレサルナリ反之後說ヲ採レハ依囑者ノ所爲ハ依囑以上ノ程度ニ達セス公證人ハ之ヲ信シテ其趣旨ニ從ヒ文書ヲ作成スレハ其文書ハ眞ノ公正證書ニシテ本問ニ對シテハ消極的ノ論結ヲ生ス

余輩ハ先キニ公正證書ニ廣狹ノ二義アルヲ説キ狹義ノ公正證書ヲ以テ公證人ノ作成スル部分アリト爲セリ從テ公證行為ニ關連スルモノト雖モ公證人以外ノモノノ行為ニ因リ生レタル部分ハ假令公正證書中ニ存在スルモ之ヲ公正證書ト爲ス能ハサルナリ何トモハ公證人規則第一條ニ公證人ハ公正證書ヲ作成スルヲ以テ職務トスルヲ明言シ公正證書ハ公證行為ノ結果タルヲ明カニセリ及而シテ公證行為ハ公證人カ獨リ爲シ得可ク其以外ノモノノ行為ハ假令公正效發生ノ要素ヲ爲ストモ雖モ公證人タル資格ナキニ於テハ到底公正行為タルコト能ハス從テ其行為ノ結果タル部分ハ公正證書タル能ハサルナリ此論理ハ亦甲者乙ノ氏名ヲ註稱セテ公正證書ニ署名捺印シタルニ影響アリ大審院判例ハ此場合ニ於テ甲ヲ以テ公文書偽造罪ニ問擬シ關係人ノ署名ハ公正證書成立ノ一要件ニシテ之ヲ缺クモノハ公正效ヲ生ズルヲ以テ其署名ハ部分ハ公正證書ノ一部タリト説明セタリ然レト雖證書ハ公正證書タルハ其性質ニ屬シ公正效ヲ有スルハ其效力ニ屬シ明書ニ本來ノ關係ヲ有ス從テ公正證書ニ屬カ故ニ公正效ヲ生ズレト雖公正效即民事上完全ナル證據力ヲ有カ故ニ公正

正證書タリト斷言スルコトヲ得ス又關係人ノ署名ニ於テ部分ノ關係人ノ作成ニ係ハルモノタルハ論ヲ俟タズ若シ其署名ノ部分ヲ以テ公正證書ノ一部ナリトセハ公證人ニ非サル關係人カ公正證書ヲ作成シ得可ト云フニ至リ其作成ハ獨リ公證人ノ職務ノミニ歸セサルノ結果ヲ生セシ若シ又署名ノ部分ヲ以テ公正證書タル部分ノ間ニ介入スルヲ以テ其一部ナリト爲シテ關係人ノ委任狀モ公正證書ニ編綴シ之ニ契印ス可キモノナルハ故ニ亦其一部トナリ之ヲ偽造シタルモ公文書偽造ノ責任ヲ負フニ至ラン從テ關係人ノ署名ハ未タ以テ公正證書ノ一部ト爲スコト能ハサルナリ

公證人ノ作成シタル公正證書ハ公正ノ效力ヲ有ス然レトモ此效力ヲ有スルハ公證人カ作成シタル書面中ノ本旨タル法律關係ニアラ故ニ甲ノ代理人タラサル乙ヲ甲ノ代理人トシテ公正證書ニ記載スルトモ之ニ因リ其代理關係ハ訴訟上完全ニ立證セラレタリト爲スコトヲ得ス何トナレハ此ノ如キハ委任ノ認證(民訴第六十四條)ノ外附屬書類タル委任狀ニノ基礎キテ之ヲ記載スルモノニシテ公證人カ公證シタルモノト云フヲ得サレハナリ

公正效ハ二様ニ行動ス即チ一方ニ於テハ證據力ヲ有シ他ノ一方ニ於テハ執行力ヲ有スルモノトス

(イ) 證據力 法律ハ公正證書ヲ以テ訴訟上完全ナル證據ナリトシタリ我訴訟法ニ於テハ制限證據法ヲ採用セスシテ證據調ノ結果ハ一ニ裁判官ノ自由ナル心證ニ依ラシムト雖モ少クトモ公正證書ヲ書證トシテ提出スルトキハ相手方ハ其成立ヲ否認スルコトヲ得ス從テ偽造變造ノ申立アラテ其結果ヲ得ルニ非ナレハ其立證力ヲ滅絶スルコト能ハサルナリ

加之私署證書ハ原則トシテ其原本ノ提出ヲ命スルニ反シ公正證書ハ其正本又ハ認證原本ノ提出ヲ以テ足レリトセリ之レ其原本ハ當該公證人ノ手裡ニ存スルカ爲ナリト云ヘ亦以テ法律カ之ニ附與シタル信憑ノ程度如何ヲ察スルニ難カラサルナリ

(ロ) 執行力 強制執行ヲ爲ス債務名義ハ單ニ裁判文書和解ヲ以テテ公正證書ニ附隨書ニ付テモ亦之ヲ爲スヲ得可シ同ヨリ其執行力タルハ一般ノ公正證書ニ附隨スルモノニ非スト雖モ裁判和解等ト均シキ執行力ヲ有ス至リテハ全ク私

署證書ノ比ニアラザルヲ知ル可シ面シテ執行力アル公正證書トハ先ノ形式ニ於テ公證人カ其權限内ニ於テ法定ノ方式ニ從ヒテ作成シタルモノトシテ要シ其實質ハ一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ナル可ク而シテ該證書ニ於テ當事者間ニ直接ニ強制執行ヲ受テ可キ旨ノ約諾アリタルモノトシテ記載シタルモノナラバ必要トス此強制執行ハ該公正證書ノ正本ニ依リ之ヲ爲シ得可ク其執行力アル正本ハ其原本ヲ作成保管スル公證人カ之ヲ付與スルモノトシテ公證人カ其原本ヲ作成保管スル公正效力有スルハ真正ニ成立シタル公正證書ニ限ル可キヤ論ヲ埃タス故ニ偽造若シクハ變造ナリトノ疑アルモノハ之ニ基キ依然執行セシムルトキハ後日回復スルコト能ハサル損害ヲ生セシムル虞アリ從テ一ノ公正證書ノ偽造變造ニ付キ刑事裁判所ニ起訴アリタルトキハ該證書ニ基キ強制執行ハ當時ノ狀態ニ於テ中止ス可ク又民事訴訟ニ於テ提出セラレタル公正證書ニ付キ偽造變造ノ争ヒアルトキ民事裁判所ハ之ヲ差出人ニ還付セザルハ勿論之ニ基キ強制執行モ其真否ノ確定ニ至ルマデ中止セザル可カラズ一式ニ從ヒテ執行

### 第二章 證書

#### 第一節 證書ノ形式

公證人ノ作成スル公正證書ハ其形式ヨリ之ニ三種ニ分類スルコトヲ得原本、正本及謄本是ナリ

(一) 原本 公證人カ人民ノ依頼ニ因リ第一次ニ作成スル證書ハ本紙ヲ原本トシテ云フ換言スレバ證書ノ他ノ種類即チ正本及謄本等ノ基礎トナシ得クナリ而シテ原本ハ公證事項ヲ明確ニシ殊ニ權義ノ存立ニ關シ重要ナルモノナルヲ以テ之ヲ作成シタル公證人又ハ其承繼者ハ之ヲ其役場ニ保存スルノ義務ヲ負擔シ裁判所ノ命令ニ依ルニ非ズレバ役場以外ニ持出スルコトヲ得ザルモノトシ之ニ違背シタルモノハ停職ノ處分ヲ受テ可キモノトシ得ル

(二) 正本 其全文ニ於テ完全ノ原本ト同一ナルモノ然レバ謄本ニテ亦之ヲ原本ヨリ別ニ獨立シテ存在シ向ホ其末尾ニ於テ本文義務ヲ執行ノ裁判所ヲ經テ爲シ得可キ旨ヲ記載シタルモノトシテ正本ト稱ス故ニ其下付ノ時亦當リ執行形



式ヲ具備シタルモノニシテ一面ニ於テハ他種ノ寫下同シテ公正事項ノ存在ヲ證明シ他ノ一面ニ於テハ其事項ヨリ生ズル義務ヲ執行シ得キ效力ヲ併有スルモノトス然レトモ此ノ如キ執行力アルヲ以テ其付與モ自ラ公證事項カ執行シ得キ場合ニ限ラレ即チ一定ノ數量ノ金錢其他代替物若シクハ有價證券ノ支拂ニ付キ公證シタル場合ニ非サレハ之ヲ下付スルコトヲ得サルモノトシタリ

法律關係ハ必ズシモ二人間ニテ成立ス可キモノニ非ス從テ其存在ヲ證明ス可キ公正證書モ其當事者カ多數ナルコトハ豫想シ得キ所ナリ而シテ正本ハ權利ヲ執行スル爲メ權利者ニ付與スルモノナレハ例ヘハ二人カ數人ニ對シ各額ヲ異ニスル金錢ノ支拂ヲ約諾シタルカ如キ其他證書ニ表示セラレタル數人ノ間ニ各自關係ヲ異ニスル法律關係ニアリテハ各權利者ニ全部ノ正本ヲ付與スルハ無用ノ手續ト云フ可ク之ヲ精確ニ論スレハ各權利者ハ其關係以外ニ於テハ權利者ニアラス從テ正本付與ヲ請求スル能力ナキモノニ似タリ此故ニカカ場合ニアリテハ各權利者ニ其有用ナル原本ノ一部分ヲ抄録シ之ヲ内容ト

シテ正本ヲ作成スルコトヲ得ルハ其原本ノ之ヲ抄録シ正本ト稱シ唯モ全文ニ於テ正本ト異ルルニシテ其效力ハ全ク相同シキモノナリ

(三) 謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノ共シテ其形式ニ於テハ原本ト異ラズルナリ分ツテ正式謄本及謄本ト二種ニテ之ヲ區別ス

正式謄本ハ其内容ニ於テ原本又ハ謄本ト異ル所ナシト雖モ其效力トシテハ原本ニ代ヘ得キモノナリ然レモ從テ原本カ或事故ニ因リ亡失シタルトキハ正本ト同シク原本トシテ保存セラルルヲ得可シ此ノ如キハ原本カ一アツテ二アツテ又ハ權義ノ存在ヲ明カニスルモノナリ然レモ不可抗力ニ依リ滅失ス期ス可カラザルカ故ニ此場合ニアリテハ亡失シタル原本ニ代リ爾後原本タル效力ヲ之ニ認メタル所以ナリ

正本ニ對シ抄録正本アリ得ルハ同義ノ理由ニ依リ原本ノ一部分ヲ抄寫ス且ツ原本ニ代ヘ得ルヲ效力ヲ有スルヲ抄録正式謄本ト云フ

謄本ト稱スル原本ノ事實上寫ニ過キス原本ノ一部分ヲ抄寫スルモノヲ抄録謄本ト稱ス

法律ニ公証人ノ取扱フ可キ書類トシテ規定シタルモノハ原本正本及謄本ノ外  
 尙ホ見出帳ナルモノヲ亦公証人ハ原本ヲ作成シ正本謄本ヲ付與シ其他日常書  
 類ノ授受ヲ掌ルヲ以テ或ハ其日附ノ前後等ヲ誤ルルキハ權利關係ニ危害ヲ及  
 ホスコト尠シトモ殊ニ書類中再度ノ下付ニ付キ嚴密ナル制限ヲ設ケタルモ  
 ノアラ此ノ如キハ單ニ該書中ノ記載又ハ公証人ノ記憶ニ止ムルヲ以テ十分ト  
 セス書類ノ番號種類等ヲ一定ノ帳簿ニ記入セシムルニ因テ職務ノ執行及其監  
 督ヲ便ナラシムルコト大ナリ此用ニ供スル帳簿ヲ見出帳ト云フ限ルベシトモ  
 公証人ハ見出帳ヲ作成ス可キ義務ヲ有ス然レドモ見出帳トシテ法定ノ事項ヲ  
 記入スルニハ一應其帳簿ヲ管轄地方裁判所ニ提出セタル可カラス當該地方裁  
 判所長ハ其帳簿ヲ受テ其綴目及合目ニ職印ヲ押捺シタル後之ヲ返付ス之レ見  
 出帳ニハ順序ヲ追ヒテ取扱書類ヲ記入スルモノナルカ故ニ後日ニ至リ交換加  
 除ナカラスシムル目的ヲ出ヅルモノナリ此ノ如ク官印ノ押捺ヲ受ケタル後始メ  
 テ有效ナル記入ヲ爲シ得可キモノトス同キ手續ヲ見出帳ノ作成ニテモ兼  
 見出帳ノ作成ヲ命スルモノ一併以テ公証人ノ職務執行ヲ監督スルニテ之兼

以上ハ債務者及ヒ第三者ハ強制執行ヲ甘受セサルベカラズ即チ此場合ノ關係  
 ハ權利義務ノ關係ニ非シテ權力服從ノ關係ニアルナリ此場合執行力アル正  
 本ハ此ノ如キ效果ヲ債務者及ヒ第三者ニ及スモノナルヲ以テ民事訴訟法ハ一  
 面彼等ヲ保護スルノ目的ヲ以テ第五百三十四條第二項ノ規定ヲ設ケタルナリ  
 故ニ執達吏ハ該規定ニ基キ強制執行ヲ行フ際ニハ常ニ執行力アル正本ヲ所持  
 セサルベカラサルハ勿論強制執行ノ施行ニ必要ナル總テノ行為ヲナスニ十分  
 ナル證據ヲ備フルコトヲ必要トス即チ之ハ預備審判ノ範圍ニ列テ補強テ士限

第二款 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一項 動産ニ對スル強制執行

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行トハ債務名義ノ冒越カ金錢ノ支拂ヲ受ルル目  
 的トスル請求ニ付テキ確定シタル權利ノ強制執行ヲ云フモノナリ云フ云フ即チ貸金請  
 求ノ訴又ハ預金立替金貸付代金貸銀等ヲ初メ總テ金錢ヲ請求シタル裁判ノ確  
 定ニ係ルモノ及ヒ此等ノ金錢ニ關スル公正證書和解ノ證書判斷ノ證書等ニ依



強制執行ヲナス場合ヲ云フナリ而シテ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ハ各種ノ強制執行中最モ多ク行ハルル所ノモノニシテ又最モ普通ナルモノナリ其ノ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ハ債權ノ辨濟ニ充ツル爲メ債務者ノ財産ヲ差押スル以上ハ總テ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ目的物タルヘキハ勿論ナリ但シ特ニ法律ニ於テ差押ヲ禁止シタル物及ヒ債務者ノ財産ニ屬セザル物ハ例外トシテ此種ノ強制執行ノ目的物タル事ヲ得ザルナリ

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ目的物タル債務者ノ財産ヲ民事訴訟法上區別シテ(一)動産ニ對スル強制執行(二)不動産ニ對スル強制執行(三)船舶ニ對スル強制執行トシ各其區別ニ從テ執行手續ノ方法ヲ異ニセリ元來船舶ハ民法上ノ觀念ニ從フトキハ動産ノ一種タルコト疑ナシト雖モ普通ノ動産ト其趣ヲ異ニシ殊ニ執行手續上ハ反ツテ之レヲ不動産ト同一手續ニ依テ取扱フヲ便トセザルヲ以テ之レヲ普通動産ト區別シタルナリ

我民事訴訟法上動産トハ民法上ニ所謂動産ノ外ニ債權及ヒ他ノ財産權ヲ包含

ス又土地ヨリ離レタル果實ト雖モ成熟前一箇月以内ノモノハ之レヲ動産ト見做セリ而シテ動産ニ對スル強制執行ハ之ヲ保全處分及ヒ辨濟手續ニ分ツコトヲ得而シテ保全處分ハ差押ニヨリテ之ヲ爲スモノナリ差押トハ強制執行ノ目的物ニ關シテ債務者ノ處分權ヲ制限スルコトヲ云フ次ニ辨濟手續ハ債權者ヲシテ債權ノ實行ヲ爲スコトヲ得セシムル方法ヲ云フ而シテ辨濟手續ハ換價ニヨリテ之ヲナスモノナリ換價トハ其差押物ヲ競賣ニ付スルカ又ハ一商人ニ賣却スルカ如キヲ云フナリ

保全處分及ヒ辨濟手續ハ強制執行ノ目的カ等シク動産ナルモ其有體ノ動産タルト債權其他ノ財産權タルトニヨリ其間自ラ差異ヲ生スヘキヲ以テ民事訴訟法ハ此兩種ノ強制執行ヲ區別シテ規定セリ

差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スルタメ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲メニ必要ナルモノノ外ニ及ホス事ヲ得ス故ニ執達吏ハ差押施行ノ際常ニ適當ノ差押ヲ避クルコトニ留意シ差押ヲ進行スル毎ニ見積リ代價ヲ付シ而シテ時概算ヲ試ミ債權ノ金額ト強制執行ノ費用ニ足ルヤ否ヤニ依

リテ尙ホ差押ヲ進ム可キヤ否キヲ定メ而シテ差押調書ヲ作ル可キモノトス故  
ニ執達吏ハ豫メ差押ノ標準トナルヘキ債權ノ金額及ヒ強制執行ノ費用ヲ確定  
シ置クノ必要アリ此旨趣ニ從ヒ執達吏ハ正確ヲ保ヌタメ左ノ如キ計算書ヲ債  
權者ヨリ差入レシムルヲ便トス即チ計算書ノ雛形左ノ如シ

一金	請求	金
一金	明治三十年 月 日迄利子	
一金	(執行費用)	
計金		
債務者	縣 市 町 大字 番屋敷	
對本件ニ自分ノ立會ヲ要スル執行相成候下ニ異議無之勿論其差押品ノ債務者及ハ同居ノ親族其時所在者ニ便宜假令御命置候下度候也	縣 市 町 大字 番屋敷	
明治三十年 月 日 債權者(記名捺印)	某區裁判所執達吏	

又差押ヲ爲スニ際シ債務者ノ財産カ悉ク差押フヘカラサルモノナルカ(民事訴訟法第五七〇條)又ハ全ク債權ナキ物ノミナルカ或ハ其物ヲ賣却スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ差押ヲ爲スコトヲ得ス此ノ如キ場合ニ於テハ執達吏ハ其物ノ種類性質及ヒ價值ノ概況ヲ差押調書ニ記シテ之ヲ差押ヘサルコトニ適當ナルコトヲ證シ置カサルヘカラス此ノ如ク差押フヘキ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキ及ヒ債務者カ其住所ヨリ逃亡シテ居所不明ナル等ニヨリ事實上強制執行ヲ爲スコトヲ得サルトキ並ヒニ債權者ヨリ執達吏ニ強制執行ノ停止ヲ申出タル等ニヨリ執行ニ著手ナス能ハサルトキハ其旨所屬ノ區裁判所事ニ報告セサルヘカラス

職部第 號	報告書	債務者
報告ノ	債務者	某區裁判所
事由	債權者	某區裁判所

右ニ對シ明治三十年 月 日 債權者 ヲリ執行

委任相受ク候處前記事由ノ爲メ執行ニ著手爲ス能ハス此段及報告候也

某區裁判所

明治三十年 月 日

執達吏

某區裁判所監督判事

殿

第三者カ差押フヘキ物ニ付キ優先ノ辨濟ヲ受クヘキ權利ヲ有スルトキ其差押物カ第三者ノ抵當物トナリ又ハ擔保物トナリ居ルカ如キ場合ト雖モ第三者ハ其物ノ差押ニ對シテ異議ヲ主張スルコトヲ得ス民事訴訟法第五六五條唯タ此場合第三者ハ訴ヲ提起シテ其賣得金ニ付キ優先權ヲ主張スルコトヲ得ルノミナリ從テ執達吏ハ差押ノ際債務者ノ占有スル財産ニツキ債務者ヨリ第三者ノ爲メニ請求ヲ爲シ又ハ第三者ヨリ請求ヲナスコトアルモ之カ爲メニ其差押ヲ止ムルコトヲ得ス但シ其要求ヲ其財産ノ或一部ノミニ付キ爲シタルトキハ執達吏ハ之ヲ差押ヘサルモ債權者ノ利益ニ影響ヲ及ホツサルヤ否ヤヲ考ヘ若シ其請求ヲ爲シタルモノヲ除キ他ノ物ヲ以テ債權者ヲ満足セシメ且強制執行ノ

費用ヲ償フニ足ルヘキ時ニ限リ其請求ニ係ル物ノ差押ヲ止ムルコトヲ得ヘシ此レ蓋シ實際上ノ便宜ニ出ルモノニシテ此ノ如クスル所ナキハ一面債權者ヲ満足セシムルト共ニ他ノ一面ニ於テ第三者ヲモ満足セシメ以テ無用ノ訴訟ヲ提起セサラシムルノ利益存スルヲ以テナリ

第一號 有體動産ニ對スル強制執行

第一 差押手續

債務者ノ有體動産ハ凡テ之ヲ差押フルコトヲ得ト云フヲ得ス民事訴訟法ニ於テハ公益ヲ維持シ又ハ債務者若クハ其家族ノ生活教育又ハ職業ヲ完フセシムルタメ同法第五百七十條第一號乃至第十三號ノ規定ヲ設ケ其差押ヲヘガラザルモノヲ列記セリ故ニ執達吏ハ差押施行ノ時ニ於テ自ラ該規定ヲ讀ムスヘキ物ナルヤ否ヤヲ判斷シ其自ラ判斷シ能ハサル物ニ付テハ差押ヲ爲ス可カラザルナリ

債務者ニ對スル有體動産ノ差押ハ(イ)其差押フヘキ物ヲ債務者ヨリ直接ニ占有ス

ルトキ(ロ)其物カ債權者ノ占有中ニアラズ又ハ第三者ノ之ヲ占有スル内之ヲ提出スルコトヲ拒マサルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ次ニ此ニツテ場合ヲ分チテ説明スルニ以テ(四)差押目物ノ所有體動産ヲ債權者カ直接ニ占有者ト認メ此處ニ於テハ執達吏ハ直ニ其有體動産ヲ差押スルコトヲ得ルハ以テ假令債權者其占有セル有體動産ハ第三者ノ所有ニ係ルモノナラモトモ主張スル場合於テモ尙其物ヲ差押フルコトヲ得ル但シ執達吏ハ可成ク債權者ヲシテ苦痛ヲ感セザラシムンカ爲メニ次ニ述フル諸點ニ注意セザルヘカラス即チ執達吏カ差押場所ニ於テ債權者ニ出會シタル時ハ先ツ債權者ニ對シ任意辨濟ヲナシ以テ債權者ヲ満足セシムヘキ催告ヲナシ其催告ノ效ナキ時ニ於テ初メテ執行ノ目的上必要トスル限度換言ストハ民事訴訟法第五百六十四條第二項ノ命スル所ニ從ヒ債權者ノ住宅倉庫ハ勿論其筐匣ヲモ開キテ其財産ヲ點檢シ其中ニ就キ可成債權者ノ必要トスルモノヲ除キ其以外ノ品ヲ差押スル以テ債權者ヲ満足スル限度ニ其差押ヲ止メサルヘカラス若シ債權者金錢ヲ所有スルトキハ先ツ之ヲ差

押フヘキモノトス蓋シ金錢ハ號賣ノ手續ヲ省キ占有ニ便ナレハナリ金錢ヲ所有セザルトキハ次ニ有價證券ノ如キ運搬ノ費用ノ掛ラサル殊ニ價格ノ殆シキ確知ヲ得ヘキ物ヲ差押フヘキモノトス蓋シ其有體動産ハ其有體動産ノ人ニ對シ民事訴訟法第五百六十六條ノ規定ニ從ヒ原則トシテ執達吏カ債權者ノ占有中ナル有體動産ノ差押ヲ實行スルニハ其物ヲ占有セザルヘカラス然ラザレバ差押ノ效力ナクモノトス依テ執達吏ハ右ノ目的ヲ達スル爲メ債權者ヨリ其物ヲ取上ケ且ツ民事訴訟法第五百六十六條第二項ノ例外ノ場合ノ外ハ債權者ノ占有ヲモ引離タサルヘカラス此ノ如クニシテ差押ヘタル物ハ之ヲ差押物貯藏所(第一編第八章第二款第三項參照)ニ貯藏保管シ其物ニ事件ノ番號ヲ附シ他ノ執行ニ屬スル物ト區別ヲナシ混雜ヲ生セザルコトニ注意シ且必要ナル場合ニ於テハ換價スル迄其物ヲ保存スルノ義務アリ尙又執達吏ハ差押物ノ貯藏殊ニ其物ノ運搬並ニ其物ノ管理若クハ保存人ノ任命ニ關シ無用ノ冗費ヲ生セシメザルコト及ヒ保存人等ヲシテ規定ニ違背セシメザルコトノ責ニ任スヘキモノトス此ノ如ク一方ニ於テハ執達吏ハ債權者ニ對シテ義務ヲ有スルト共ニ他方ニ

於テハ其差押物ヲ貯藏又ハ保存スルガ爲メ別段ニ實費ヲ要スルカ如キ場合例  
 ハ牛馬ノ如キ家畜ヲ差押ヘタル如キ場合ニハ債權者ヲシテ其金額ノ豫納ヲ爲  
 サシムルコトヲ得蓋シ豫納ノ事ニ付テハ執達吏手数料規則第十九條ニ於テ  
 般ノ規定ヲ設ケタリト雖モ同規則ニ所載豫納ハ單ニ手数料及ヒ立替金ノ豫納  
 ニシテ茲ニ云フ所ノ豫納ノ場合ヲ含ムモノニ非ルナリ且シテ豫納ノ額ハ  
 以上述フル所ノ差押物ノ貯藏ニ關スル處分ニ付テハ執達吏ハ常ニ之ヲ差押調  
 書中ニ記載スルヲ要ス但シ執達吏カ若シ差押物貯藏所ヲ有セザルトキ又ハ此  
 レヲ有スルモ差押物ノ性質ニヨリ又ハ其他ノ理由殊ニ執達吏ノ住所外地ニ於  
 テ差押ヘタルモノニシテ此レヲ執達吏ノ貯藏所ニ運搬スルトキハ數多ノ費用  
 ヲ要スル場合等ニ於テハ上述ノ處分ニ從フヲ得ザルヲ以テ此場合ニ於テハ其  
 差押物ハ差押ヲナレタル土地ニ住居シテ信用アリ且ツ辨償能力アル者ニ託シ  
 テ保存ヲ爲サシムル事ヲ得此ノ如ク執達吏ヨリ委託ヲ受ケタル保存人ニ對シ  
 テハ執達吏ハ其保存行爲ニ對シ前以テ確定シタル報酬ヲ授クヘシ而シテ執達  
 吏ハ其受委託者タル保存人ヨリ委託物ヲ領收シタル旨ノ證書ヲ受取リ且ツ必

要ナル場合ニ於テハ保存人任命ニ關スル調書ヲ作り該調書ニ(イ)保存人トナシ  
 タル約疑(ロ)物ノ交付ニ關スル保存人ノ承諾(ハ)保存ノ爲メ交付シタル物ノ記載  
 テ列記シ該保存人ニ署名捺印セシメ之ヲ差押調書ニ添附スヘキモノトス  
 以上説明スル所ハ差押ニ關スル要件ノ一ナル差押物ノ處置ニ付テ我民事訴訟  
 法ノ採用セシ所ノ原則ナリ然レドモ實際ノ場合ニ於テハ執達吏ノ中完全ナル  
 貯藏所ヲ有スル者ハ至ツテ少ナク又貯藏所ヲ有スルトスルモノ一差押物ヲ執  
 達吏ノ貯藏所ニ運搬シ之ヲ保管スルハ不用ノ費用ト煩多ノ手数ヲ要スルヲ以  
 テ寧ロ立法上ノ見解トシテハ原則トシテ差押物ハ之ヲ債務者ニ保管セシムル  
 ノ便利ナルニ如カス殊ニ執達吏ノ住所外地ニ於テ差押ヘタル物ノ如キハ實際  
 ニ於テハ其土地ノ信用アル人ニ保管セシムヘシトノ規定ノ如キ一見當ヲ得タ  
 ルカ如シト雖モ我國ノ如ク尙ホ權利思想ノ能ク發達セス中流以上ノ士ハ多ク  
 訴訟事件ニ關係スルヲ避ケタルカ如キ風習アリ我國ニ於テハ實際此ノ如キ保管人  
 ヲ任命スル能ハザルノ不都合ヲ生ス故ニ民事訴訟法ニ於テモ第五百六十六條  
 一項ニ對シ第二項ノ例外ノ場合ヲ認メタリ而シテ實際ニ於テハ第二項ノ場合

普通ニ行ハルル事トナレリ余輩ハ更ニ一步ヲ進メテ差押物ノ保管ハ債務者之ヲ爲スヲ原則トシ又之ヲ保管スルノ義務ヲ債務者ニ負擔セシムル事ノ至當ナルヲ見ル此ノ如クスレハ故意ニ執達吏ニ困難ヲ感セシメンカ爲メニ保管ヲ謝絶シ爲メニ執行ニ無用ノ費用ヲ生セシメントスルハ狡猾ナル債務者ヲシテ其策ヲ弄スルニ所ナカラシムルト共ニ保管ノ責任危險ノ負擔等ニ關シ頗ル良好ナル結果ヲ見ルニ至ルヘシト信ス

右ニ述フル所ノ理由ニ基キ法律ハ上ノ原則ニ對シ例外ヲ設ク即チ差押物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任スル事ヲ得此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其效力ヲ生ス(民事訴訟法第五六條第二項)定メタリ

差押物ヲ債務者ニ保管セシムルニ付テハ常ニ執達吏ハ左ノ諸點ニ注意セサルヘカラス即チ

(イ) 債權者ノ承諾アル場合ニ於テ債務者ニ差押物ノ保管ヲナサシメタルトキハ債權者ノ書面又ハ口頭陳述ノ書取又ハ執達吏ノ執行記録ノ記載ヲ以テ之ヲ

明確ニナシ置カサルヘカラス而シテ通常ハ之ヲ債權者ヨリ執達吏ニ交付スル請求金計算書ニ記入セシメ置クヲ常トス(前掲計算書雛形參照)

(ロ) 封印又ハ其他ノ方法ヲオスニ其場合ニ從ツテ或ハ其差押物ニ直ニ封印シ又ハ其差押物ヲ入レアル倉庫、監庫等ノニ封印スルニ足ル事アリ此ノ如キ場合ノ如何ハ執達吏自身ノ自由裁斷ニ任セラル又若シ封印ヲ爲ス事ヲ得サル場合(例ハ庭園ノ植物、石燈籠ノ如シ)ニハ標目ヲ付シ差押物ニ接近シタル人ノ見易キ場所ニ貼札ヲオスカ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ以テ各人ニ之ヲ知ラシムヘキモノトス尙此ノ如クスルモ差押ノ效力ヲ充分オラシムル能ハスト思慮スルニキハ之ニ對シテ管理人ヲ置クコトヲ得ルナリ

(ハ) 執達吏ハ債務者ニ對シテ其差押物ノ占有カ自己ニ歸シタルコト或ニ債務者カ其封印ヲ破棄シ又ハ其物ヲ使用處分シタル時ハ法律上ノ罰ヲ受クヘキコトヲ債務者ニ充分ニ諭示シ置カサルヘカラス

(ニ) 差押圖書ニハ差押物ヲ債務者ノ保管ニ任セタル理由、封印ノ數、其差押ノ告示並ニ保全ノ爲メニシタル處分ヲ記載シ(ハ) 號ノ注意ヲ債務者ニ爲シタル事等



ヲモ記載シ置キタルヘカテ或レハ債權ノ爲メ或レハ債務者ヨリ更執達吏ニ對シ差入レシ  
 ヲル保管證大體形ヲ左ニ示シ以テ執達吏タル人ノ參考ノ資料トナサントス  
 其格式ハ左ノ如クシテ之ニ依リテ製スルベシ  
 保管 管 約 款  
 道同(一)ノ裁判所明治(二)年(三)第(四)號(五)ヨリ(六)ニ對  
 スル(七)請求事件ノ(八)正本ニ基キ債務者(九)ニ對シ御差押相  
 成候別紙第(十)號目錄ノ物件自分(十一)保管方委任相成候(十二)付テ左記約款ノ  
 通り違背ナク履行可致候(十三)目録(十四)目録(十五)目録(十六)目録(十七)目録(十八)目録  
 第(十九)號凡ソ物件ハ大切ニ之ヲ保管シ荷モ使用等致間敷候(二十)目録(二十一)目録(二十二)目録  
 又(二十三)但封印個個標目(二十四)個個示書(二十五)個個破毀セザル様管理可致候(二十六)目録(二十七)目録(二十八)目録  
 第(二十九)號保管物件ニ就テハ充分ノ注意ヲ加フルハ勿論ナリ下雖モ荷モ異狀ヲ  
 發生シタル節(三十)急報可致候(三十一)目録(三十二)目録(三十三)目録(三十四)目録(三十五)目録  
 第(三十六)號天變地異等避テ(三十七)カラサル權災ヲ除ク其他ノ理由(三十八)因リ保管物件ヲ

テシテ毀損滅敗ニ至ラレタル節ハ保管人ニ於テ賠償可致候(三十九)目録(四十)目録(四十一)目録(四十二)目録(四十三)目録  
 第四 保管料ハ物件ノ保存ニ必要ナル費用ヲ除ク外壹日金(四十四)錢ノ割ヲ以テ  
 保管解除ノ際之カ支拂テ可受候(四十五)目録(四十六)目録(四十七)目録(四十八)目録(四十九)目録  
 第五 別紙第(五十)號目錄中(五十一)番ノ成熟時期ニハ其收穫ノ貳日以前ニ相違ナ  
 ク貴殿(五十二)通報ノ上何分ノ御指圖可相受候(五十三)目録(五十四)目録(五十五)目録(五十六)目録(五十七)目録  
 第六 別紙第(五十八)號目錄中(五十九)番(六十)番(六十一)番(六十二)番(六十三)番(六十四)番(六十五)番  
 除ノ節支拂可相受候尤モ疾病ノ兆候相見候節(六十六)一方療養ノ手當ヲオシ  
 方貴殿(六十七)急報可致候(六十八)目録(六十九)目録(七十)目録(七十一)目録(七十二)目録(七十三)目録(七十四)目録(七十五)目録  
 但自分ノ懈怠(七十六)ヨリ疾病ニ罹ラシメ若クハ死ニ致シタル節(七十七)速ニ賠償可  
 致候(七十八)目録(七十九)目録(八十)目録(八十一)目録(八十二)目録(八十三)目録(八十四)目録(八十五)目録  
 若右各款無相違遵守可致依テ保管約款如斯ニ候也八十八(八十九)目録(九十)目録(九十一)目録(九十二)目録(九十三)目録(九十四)目録(九十五)目録

明治三十年

月 日

時 刻

市

町大字

番

某 縣 某 郡 某 村

保管人

執達規則 民事事件ニ付テノ強制執行

某區裁判所

某殿

執達吏

某殿

差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ果實民法第八十八條參照ニ及フモノナ  
リ故ニ此果實ノ差押ハ特ニ之ヲナスコトヲ要セス

執達吏ハ強制執行完結後ニ至リ賣却セザラシ差押物民事訴訟法第五七八條參  
照又ハ強制執行中裁判所ノ裁判若クハ債權者ノ免除ニ依リ差押ヲ解除シタル  
物ヲ即時ニ債務者又ハ領收權利者即チ抵當物ノ貸與者又ハ債務者ノ相續人等  
ニ交付セサルベカラズ而シテ其交付シタル物ニ付テハ執達吏ハ債務者又ハ領  
收權利者ヲシテ受取證ヲ出サシメ之ヲ記録ニ添附シテ保存セサルヘカラス但  
シ普通ノ場合ニ於テハ差押物ハ多ク債務者又ハ領收權利者ヲシテ保管セシム  
ルヲ以テ此ノ如キ場合ニハ差押物ノ解放ヲ債務者又ハ領收權利者ニナサシム  
ルトキハ雙方ノ便利ニシテ且ツ之ヲ交付シ別ニ受領證ヲ檢スルノ煩雜ナシ故  
ニ實際ハ多ク此簡易手續ニヨル事トナレリ今次ニ差押物解放通知書ノ雛形ヲ

示シ以テ執達吏ノ職ヲ奉スル人ノ參考ニ資セン

明治 年職務簿第 號

解放通知書

一明治 年 月 日

附記スル執行文ニ基ク債權者

債務者ノ所有有體動産ヲ差押ヘタル處

但シ封印標目公示書等ハ便宜除却シ當役場へ差出スヘシ

右及通知候也

明治 年 月 日

何區裁判所

執達吏

(ロ) 差押目的物タル有體動産ヲ債權者又ハ第三者カ占有スル時 第三者カ債務者ノ有體動産ヲ占有スル場合ニ於テ其第三者カ其物ノ提出ヲ拒ミタルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得ヌ故ニ此場合執達吏ハ其事實ノ調査ヲ作リ債權者ニ對シ第三者カ其提出ヲ拒ミタル旨ヲ通知シ債權者ヲシテ更ニ其第三者ニ對シ該有體動産引渡ノ請求ヲ爲サシムヘキコトヲ注意セサルヘカラス然レトモ若シ第三者カ其物ヲ直チニ提出シタルトキ又ハ差押目的物タル債務者ノ有體動産カ債權者ノ占有中ニアルトキハ其有體動産ノ差押ニ付テハ總テ債務者ノ占有ニ保ル有體動産差押ノ場合(イ)ノ場合ト同一ノ手續ニ從フヘキモノナリ以上説明シタル(イ)(ロ)ノ場合ノ何レタルヲ問ハス執達吏ノ差押ヘタル金銭ハ直チニ差押ヲ爲シタル日ヨリ二日内之ヲ債權者ニ引渡スヘキモノナリ執達吏カ債務者ヨリ金銭ヲ取上ケタルトキハ債務者ヨリ債權者ニ辨濟ヲナシタルモノト看做サル從フテ執達吏カ債務者ヨリ金銭ヲ取上クルヤ否ヤ危險ノ負擔ハ直チニ債權者ニ移轉ス此レ金銭以外ノ物品ヲ差押ヘタル場合ト趣テ異ニスル所ナリ然レトモ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ強制執行ヲ免ルルコトヲ債務者

ニ許シタル場合ニ於テハ差押金銭ハ之ヲ供託スヘキモノナリ故ニ此場合ニ於テハ辨濟ノ效力ヲ生セス此ノ如ク債權者ニ其金銭ヲ引渡シ又ハ供託ヲナスマテハ執達吏ハ豫メ金錢證券物品等ヲ保管スルタメ準備シタル土藏又ハ堅牢ナル建物中ニ之ヲ保管セサルヘカラス

以上ノ手續ヲ以テ執達吏カ差押ヲナシ終リタル時ハ執達吏ハ民事訴訟法第五百四十條ニ從ヒ差押調査ヲ作ラサルヘカラス而シテ差押調査ニハ民事訴訟法第五百四十條列記ノ事項以外ニ次ノ諸件ヲ記載セサルヘカラス即チ(イ)各物ノ概算價額ヲ附シタル差押物ノ詳細ナル記載又必要ナル場合ニハ員數、尺度、重量等ノ記載(ロ)執達吏差押物ヲ占有シタルコトノ記載(ハ)保存ノ際爲シタル處分ノ記載(ニ)債務者ニ差押ヲ通知シタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ通知ヲ爲シタルヤ民事訴訟法第五四一條ヲ記載(ホ)競賣期日ノ日附場所若シ此期日ヲ直ニ完ルコトヲ得サルトキハ其理由ノ記載(ヘ)以上記載事項ノ外調査ニハ差押ノ各種ノ方法又ハ差押ノ際特別ノ事件ニ付テノ規定ニ依リ定メアル執達吏職務細則第五十三條第五十八條第六十五條等ノ場合ニハ餘計ニ附加ヘサルヲ得サル

マトアリ又此調査ノ原本ヲ債務者ヨリ求メスレハ調査財産差押目録等ヲ寫シテ債務者ニ送達シ其送達セタルコトヲ調査ノ附録中ニ附記セサルヘカラス而シテ民事訴訟法第五百四十條ニハ差押財産ノ目録ヲ作ル事ヲ規定シ非ストモ差押物數多アルトキハ財産目録ヲ作り之ヲ差押調査ニ添附シテ製印スルヲ便利トシ今差押調査並ニ財産目録ノ雛形ヲ左ニ示ス

有體財産差押調査

海三年 號	手続料及立寄金	請求金額	(住所)	(債權者)	(債務者)	(請求額)	(執行費用)	(合計金額)
一 金	手続料	一 金何圓何十錢	(住所)	(氏名)	(氏名)	一 金同	一 金同	一 金同
立寄金	合計金							

右金額ハ明治 年 月 日(何某公證人第何號貸借證書正本)ニ依リ債務者ノ辨濟スヘキモノトス  
 明治三十年 月 日送達シタル右(正本ニ附記スル執行文)ニ基ク債權者ノ委任ニ依リ債務者住居ニ於テ債務者ニ出會ノ上任意辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シタリ債務者ハ即時辨濟スル能ハサル旨陳述シタリ  
 依テ前記請求金額並ニ強制執行費用ノ辨濟ニ充ツル爲メ債務者ノ住居店舗倉庫物置ヲ搜索シタル所其現ニ所有スル所ノ財産ハ別紙目録ノ通り法律上差押フルコトヲ得サル物又ハ差押フルコトヲ得ルモ換價ノ上限制執行費用ヲ償ヒテ剩餘ヲ得ル見込アキモノナルヲ以テ差押ヲ止メタリ  
 明治三十年 月 日午前 差押ノ手續ニ著手シ同時 分ニテ止メタリ此調査ハ左之者ニ關シカセシ處承諾ノ上記名調印シタリ  
 (債務者等ノ氏名印)

明治三十年 月 日

此調査ハ債務者住所ニ於テ之ヲ作ルモノナリ

何區裁判所 執達吏

番號	物件ノ表示	眞實取尺	見積代價	封印ノ方法 ハ他ノ方法	備考

第二 換價手續

執達吏カ金錢以外ノ物ヲ差押ヘタルトキハ其差押物ヲ賣却シテ之ヲ金錢ニ換價シテ債權者ヲシテ債權ノ實行ヲ爲スコトヲ得セシメラルヘカラス而シテ民事訴訟法ニ於テ認ムル換價手續ニ二種アリ一ハ一般ノ賣却ノ換價手續ニシテ本則的換價手續ニシテ他ハ一般ノ賣却ノ換價手續例外的換價手續之レナリ今次ニ此兩種ノ換價手續ニ付キテ説明セン

(一)本則的換價手續  
 特別ノ場合ニ於テ一般ノ賣却方法以外ノ方法ニヨリ換價スヘキ場合次ノ(二)參照ヲ除テ外執達吏カ其差押物ヲ賣却スルトキハ常ニ民事訴訟法第五百七十二條乃至第五百七十八條ノ規定ニ從ヒ賣却ノ方法ニ依リ換價セラルヘカラス而シテ賣却ノ場合ニ於テハ執達吏ハ特ニ債權者ノ委任又ハ裁判所ノ許可ヲ受タルコトヲ要セス且ツ其賣却ニヨリテ得タル代金ハ直チニ之ヲ債權者ニ引渡スヘキモノナリ又執達吏カ賣却代金ヲ受取りタルトキハ債務者ヨリ債權者ニ辨

濟シタルモノト看做サル但シ債務者カ保證ヲ立テ又ハ供託ヲナシテ執行ヲ免ルヘキトキハ執達吏ハ其賣得金ヲ供託スヘキモノナリ此場合ニ於テハ辨濟ノ效力ヲ生セス

執賣手續ニ關シテハ便宜上之ヲ七項ニ分チテ説明セントス  
(一) 執賣期日以前ノ手續 執賣期日トハ實際上執賣ニ著手シタル其時限ヲ云フ執達吏ハ執賣ニ著手スル以前ニ即チ執賣期日前ニ執賣スヘキ物ト差押調査及ヒ差押財産目録トヲ對照シ賣却物ヲ執賣ノ場所ニ置キ執賣ニ付スル準備ヲ爲シ若シ對照ノ結果其差押物ニ不足又ハ毀損ノ物アリシトキハ之ヲ差押調査中ニ記入シ置キ若シ其物ヲ保存人ニ委託シテアリタルトキハ其保存物ヲ受取ルトキニ作ルヘキ調査ニ之ヲ記入シ置カサルヘカラス而シテ此場合ニ於テハ其調査ノ原本ヲ債務者ニ送達シ其不足又ハ毀損ノ物アルニ拘ハラズ之ヲ執賣ニ付ス可キナリ若シ保存ヲ爲サシメタル物アリテ保存人ヨリ其物ヲ受取リシ時ニ保存人カ受取證ヲ求ムレハ之ヲ交付セサルヘカラス  
(二) 差押物ニ關スル制限 執達吏カ差押ツナシタル物品中高價ナル物アリシ

トキハ適當ノ鑑定人ヲ雇ヒ之ニ評價セシメ其評價ヲ執達吏ノ調査ニ記載スルカ又ハ評價書ヲ出サシメ以テ其評價ヲ標準トシテ賣却ス可キモノトス之レ蓋シ債務者ノ或ハ受クヘキ不利益ヲ豫メ除却セント欲スルノ立法趣旨ニ出ツ而シテ其鑑定ニ要セシ費用ハ執達吏手数料規則第十三條ノ立替金中ニ包含セラ

ルヘキモノトス  
執達吏ハ差押物ヲ執賣ニ付スルト執賣以外ノ方法ニヨリ換價スルトヲ問ハス自ラ之ヲ買取リ又ハ家族若クハ他人ニ依テ之ヲ買取リ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ買取ラシムルコトヲ許サス又執達吏ハ執賣補助ノ爲メ立會ハシメタル者ヲ以テ執賣ニ加ラシムルコトヲ許ス可カラサルナリ之レ蓋シ執達吏ヲシテ最モ公平ニ且ツ著實ニ其職務ヲ行ハシメンカ爲メニ設ケタル規定ニシテ之ニヨリテ最モ生シ易キ弊害ヲ豫メ防止セントスルニアリ

(三) 執賣ノ場所 原則トシテ執賣ノ場所ハ其差押ヲ爲シタル市町村トス但シ民事訴訟法第五百七十六條第一項但書ニヨリ差押債權者及ヒ債務者カ他ノ場所ニ於テ執賣ヲナスコトニ合意シタルトキ又ハ同法第五百八十五條ニヨリ執



行裁判所カ他ノ場所ニ於テ競賣スヘキ事ヲ命シタルトキ其場所ニ於テ競賣  
 ナナスヘキモノトス然レトモ又執達吏ハ此等ノ命令又ハ合意ヲキドキト雖モ  
 差押ノ場所ニ於テ競賣ヲナストキハ相當ノ價額ニテ賣レ行ク見込ガキトキ又  
 ハ差押物ヲ他ノ場所ニ貯藏シアル場合等ニ於テハ執達吏他ノ場所ニ於テ競賣  
 ラナスヲ可トスル旨ヲ債權者債務者ニ通知シテ合意ヲ爲サシメ若シ合意整ハ  
 ナルカ又ハ當事者ノ一方不在ナルカ如キ場合ニハ執行裁判所ニ申出テ競賣ノ  
 場所ノ指定ヲ求ムヘキモノトス

(四)競賣ノ期日 差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少クトモ七日ノ期間ヲ存ス  
 ルコトヲ必要トス(民事訴訟法第五七五條)而シテ通例執達吏ハ此期間ヲ十四日  
 ト定ム之レ蓋シ其競賣期日及ヒ場所競賣物ヲ公告シ衆人ニ知ラシメ且ツ差押  
 ニ對シ異議アル第三者ニ競賣以前其執行ノ停止若クハ除去ヲ求ムルノ機會ヲ  
 與フルニ便ナラシメシカ爲ナリ但シ差押債權者執行力アル正本ニ因リ配當ヲ  
 要求スル債權者及債務者カ競賣ヲ更ニ早クナシテ合意シタルトキ又ハ  
 差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ不相應ナル費用若クハ其物ノ價格ノ著シテ減少

スル危害ヲ避ケンタメ競賣ヲ早クナシコトノ必要ナルトキハ此期間ヲ短縮ス  
 ルコトヲ得ルナリ又差押後一ヶ月以上競賣ヲ延ハスコトハ顯著ナル特別ノ理  
 由アルニ非レハ之ヲ許サス

競賣期日ハ原則トシテ差押ノ時之ヲ定メ差押調書ニ之ヲ記載シ置カサルヘカ  
 ラス但シ例外トシテ差押物ヲ他ヘ運搬セサルヘカラサル場合又ハ債權者債務  
 者カ期日ヲ後ニ定ムルコトヲ承諾シタル場合又ハ土地ヨリ離レサル果實或ハ  
 蠶ヲ差押ヘタルモ其果實ノ成熟時期又ハ蠶ノ繭トナルトキヲ確知シ能ハサル  
 カ如キ場合ニ於テハ期日ノ指定ヲ差押以後ニ定ムルコトヲ得ヘキナリ果實及  
 蠶ノ競賣ハ之ヲ例外的換價手續ノ部ニ於テ詳説ス此ノ如クニシテ若シ差押ノ  
 後ニ期日ヲ指定シタルトキハ其期日ニ債權者及ヒ債務者カ立會ヒ得ヘキ時間  
 ヲ與ヘ其指定期日ヲ債權者及ヒ債務者ニ通知セサルヘカラス

(五)競賣ノ公告 競賣ハ差押後可成速ニ之ヲ公告セサルヘカラス公告ハ其差  
 押物ノ價額ニ從ヒ賣得金多額ナル場合ニハ之ヲ新聞紙ニ廣告シ其他ノ場合ニ  
 ハ多ク揭示板ニ貼付シテ之ヲナス要スルニ其何レニ從フヘキヤハ其場合ノ如

何ニヨリ執達吏ノ自由裁量ニ一任セラル而シテ公告ニハイ)競買スヘキ物ノ略記就中高價物ハ特ニ詳細ナル記載(ロ)競買ノ日時及ヒ場所ヲ掲ケサルヘカラス尙ホ公告ヲ爲シタル方法日時ハ執達吏ノ調査ニ附記シ又ハ其證據トナルヘキモノヲ添附シ以テ之ヲ明確ニスヘシ其他既ニ公告シタル日時ヲ改メントスルトキハ更ニ公告ヲナシ以前ノ公告ハ之ヲ取除キ置カサルヘカラス

(六)競賣ノ實施 競賣期日ニハ執達吏先ツ民事訴訟法第五百七十七條ニ規定スル賣却條件ヲ告知セサルヘカラス若シ債權者債務者ノ合意ニヨリ又ハ執行裁判所ノ命令ニヨリ民事訴訟法第五百七十七條ニ規定シタル條件ト異ル賣却條件ヲ定メタルトキハ其特定ノ賣却條件ヲ告知セサルヘカラス次ニ執達吏ハ競賣ノ申出ヲ催告シ一呼上ケテ其物ヲ示シ競買人ヲシテ競買價額ノ申出ヲナサシメ各箇ノ物件ニ付キ順次ニ三回宛競買ノ最高價額ヲ呼上ケタル後其競落ヲ爲ササルヘカラス次ニ競落物ノ引渡ハ其買代金ト引換ニ之ヲ爲ササルヘカラス而シテ競買代金ノ支拂ハ特別ノ定ナキトキハ競賣期日ノ終ル前ニ於テ之ヲ爲シ若シ賣却條件ニ於テ特ニ支拂期日ヲ定メタルトキハ其期日ニ支拂

フヘキモノトス若シ最高價競買人カ其支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ヲ競賣スヘシ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ヲ其競賣ニ加ハラシムルコトヲ得ス但再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任セシムヘク高キトキハ剩餘ヲ請求スルヲ得セシメサルナリ

競賣ニ附シタル物ハ之ヲ悉ク競賣調査ニ記入シ高價物ハ其評價ヲ告ケ金銀物ハ其實價ヲ告ケテ競買價額ハ其評價又ハ實價ヨリ低價ノ競買ヲ許ササル旨ヲ催告シ競落ノ節ハ直チニ競賣調査ニ每品其最高競買價額及競落人ノ氏名ヲ附記シ又其代價ヲ支拂ヒタルトキハ其旨ヲ附記セサルヘカラス

次ニ執達吏ハ民事訴訟法第五百七十八條ノ旨趣ニ從ヒ過分ノ競落ヲ避ケンカ爲メニ時時賣得金ヲ計算シ其額請求債權額及ヒ強制執行ノ費用ニ滿ツルニ至ルトキハ直チニ競賣ヲ止メサルヘカラス又金銀物ニシテ競賣當時相當價額ヲ以テ競買スル者ナク爲メニ競落ヲ許ス能ハサリシトキハ執達吏ハ其旨ヲ競賣調査ニ附記シ置カサルヘカラス

(七)競賣調査 競賣調査モ亦民事訴訟法第五百四十條ノ規定ニ從ヒ作製スヘ

キハ勿論其以外ニ次ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス即チ(一)競賣ノ賣得金ヲ以テ  
辨済スヘキ債權及ヒ強制執行ノ費用ノ合計額(二)若シ賣却條件カ民事訴訟法第  
五百七十七條ノ規定ニ異ル場合ニ於テハ其賣却條件(三)競賣物ヲ列記シ且其各  
物ニ付キ競落人及ヒ其最高競買價額ノ記載並ニ代金支拂濟ノ旨ノ附記  
次ニ競賣調書ノ書式ヲ示サン

有體動產競賣調書

昭和三年 第  
手數料及立替金  
一金  
立替料  
一金  
合計金

債權者 (住所) (氏名)  
債務者 (住所) (氏名)

請求金額

債權者ノ請求額  
債務者ノ請求額  
債權者ノ請求額  
債務者ノ請求額  
合計金  
債權者ノ請求額  
債務者ノ請求額  
合計金  
債權者ノ請求額  
債務者ノ請求額  
合計金

右金額ノ辨済ニ充ツル爲メ明治三十年 月 日

ニ掲載  
セシ公告ノ通り別紙目錄ニ記入シタル差押物ヲ競賣ニ付シタリ  
臨場競買人ニハ左ノ條件ヲ告知シタリ

一 競落ハ最高競買價額ヲ三回呼上ケタル後ナルコト

一 競落物ハ代金ト引換ノ上引渡ス可キコト

一 最高價競買人ハ競賣期日ノ終ル前ニ代價ヲ支拂ヒ競買物ノ引  
渡ヲ求ム可シ 月 日限り代價ヲ支拂ヒ競買物ノ引渡ヲ  
求ム可シ此條件ヲ履行セサルトキハ更ニ其物ヲ競賣ニ付ス可  
キコト

一 最高價競買人ハ再度ノ競買ニ加ハルコトヲ得ス且其競落代價  
最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ其不足ヲ負擔ス可ク之ヨリ高  
キトキモ其剩餘ヲ請求スルコトヲ得サルコト

右ノ告知ヲ爲シタル後競買ヲ催告シタリ

各競賣物ノ價額ハ別紙目錄ニ記入シタル最高價ノ申出アリタル後  
三回之ヲ呼上ケタルモ更ニ高價申出人ナキニ依リ各最高價ノ者ヲ  
以テ競落人ト定メタリ

競落人ハ競買物ノ代價ヲ支拂ヒタリ

競賣得金ノ計算ハ左ノ如シ

賣得額  
(手数料)

一金

差引金

一金

債權者ニ返還  
ニ渡ス

右調書ハ最高價申出人承諾ノ上記名調印セリ

明治 年 月 日

競賣物目錄

番號	差押調 査番號	競賣物	代見 金額	最高價 額	最高價競買人	備考

雜報

○郡農會補助費ノ分賦 郡ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若シ補助ヲ爲スコトヲ得ヘク郡制第八八條郡ノ負擔ハ郡財產ヨリ生スル收入及ヒ其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツル外郡内各町村ニ分賦スルコトヲ得ルモノトス(同第八九條)然ラハ郡農會ニ補助ヲ爲スハ郡制第八十八條ニ所謂公益上必要アル場合ニ恰當スルヤ否ヤ行政裁判所ハ曰ク該條ハ郡カ其公益上必要アル場合ニ於テ他人ノ事業ニ對シ補助ヲ爲スコトヲ得ルノ規定ニ止ルモノナレハ補助ヲ受クル團體カ法令ニ據ルモノナルト否トノ區別アルコトナシト又同一判決ニ於テ郡農會補助費ヲ郡制第八十九條第一項ノ必要費ト同一視シテ町村ニ分賦シタルヲ不當セル論旨ニ對シ説明シテ曰ク郡カ郡制第八十八條ノ規定ニ基キ郡ノ公益上必要アルモノトシテ補助ヲ爲ス以上ハ同制第八十九條ノ必要ナル費用ト撰ムコトナク其負擔ハ郡ノ財產ヨリ生スル收入其他ノ收入ヲ以テ充ツルモノノ外郡内各町村ニ分賦スベキハ相當ノ處分ナリトス(行政裁判所明治三十六年第一四四八三號)

明治三十七年五月三十日第一號令(官告第一六一七號)第十六條(第六百八十三號)  
 ○身分登記トハ籍吏ノ職責ニテハ籍吏カ身分登記ヲ申請ヲ受理セザルニ當リ申請以外ニ於テ知り得タル實體上ノ事實ヲ斟酌スルハ得ルコトヲ否例ヘハ既ニ死亡シタル者ノ名義ニテ申請ヲ爲シタル場合ニ如シ之ニ關スル大審院ノ判決ニ曰ク「戸籍吏カ身分登記ヲ爲スニ當リテハ常ニ必ラス當事者ノ登記申請ニ基テキテ之ヲ爲スコトヲ要セザルモノトシテ認知スル所ヲ基礎トシテ登記ヲ爲スヘキモノニアラザルコト又當事者ノ申請カ荷テ法律ニ定ムル形式上ノ要件ヲ具備スル以上ハ登記ノ手續ヲ爲スヘク其申請カ實體上ノ要件ヲ欠ケルヲ理由トシテ登記手續ヲ拒ムヘキモノニアラザルハ誠ニ所論ノ如シ故ニ戸籍吏カ當事者ヨリ申請シタル事項カ實體事實ニ適合セザルコトヲ知りテ之ヲ登記スルモ戸籍吏所ニ於テ何等刑事上ノ責任ヲ負フコトナカルヘキハ論ヲ俟タザル所ナリ然レトモ戸籍吏カ豫メ虚偽ノ身分登記ヲ爲サントスル他人ノ企畫ニ賛同シテ之レカ實行ノ任ニ當リ虚偽ノ登記ヲ爲スカ如キハ決シテ其職務ヲ實行シタルモノト謂フコト能ハザルノミ

ナラス死者ノ名義ヲ以テ爲シタル届出ヲ死亡後ニ受領シ且ツ其届出ハ死者ノ生前ニ受領シタルモノトシ日附ヲ溯ラシメテ之レカ登記ヲ爲スカ如キハ戸籍吏カ戸籍ニ關スル登記上ニ於テ遵守スヘキ手續ニ違背シタルモノニシテ正當ニ職務ヲ執行シタルモノト謂フコトヲ得不得果シテ然ラハ是等ノ場合ニ於テ戸籍吏ノ爲シタル登記ハ官吏カ其管掌ニ係ル簿冊ニ虚偽ノ事項ヲ記載スルニ依リテ成立スル刑法第二百五條ノ犯罪ヲ構成スルヤ明カナリト(大審院明治三十一年六月十三日第一號令(官告第一六一七號)第十六條(第六百八十三號)第三十七年六月十三日第一號令(官告第一六一七號)第十六條) ○買戻ノ登記 不動産登記法第一條ニ於テ「登記ハ左ニ掲ケタル不動産ニ關スル權利ノ設定保存移轉變更處分ノ制限又ハ消滅ニ付キテ之ヲ爲スト規定シ所有權地上權永小作權地役權先取特權質權抵押權賃借權ヲ列記セリ今買戻ノ特約民法第五七九條ニ基キテ買戻ヲ爲シタルモノカ如何ニ登記ヲ爲スヘキカニ付キ大審院ノ判例ニ紹介センニ其判例ニ曰ク「不動産登記法ヲ按ズルニ同法ニハ別ニ買戻特約履行ノ登記ヲ爲スヘキ規定スルモノナラス故ニ買戻特約ニ依ルト新ナル買戻ニ出ヅルモノト問ハズ均シク買戻ノ登記ヲ爲スヘキモノト解

釋セサルヲ得ス然ラハ登記簿ニ單ニ賣買ノ登記ノミヲシタムハ一事ヲ以テ買  
 戻ノ特約履行ニ非スト斷定スルヲ得サル筋合ナリ然ルニ原判決ハ其理由ハ買  
 戻ニ於テ本訴主要ノ争點ハ被控訴人カ買戻期限内ニ於テ其買戻ノ特約履行ノ  
 登記ヲ爲シタルヤ否ヤニ在リトストノ前提ヲ置キ而シテ登記簿原本ニ依レハ  
 賣買登記ヲ爲シタルモノトスト判示シ由テ以テ上告人カ買戻期限内ニ於テ其  
 ノ特約ノ履行登記ヲ爲シタルニ非サルモノトシ上告人カ請求ヲ排斥シタルハ  
 上告人所論ノ如ク違法ノ裁判ニシテ上告其理由アリト(大審院明治三十八年  
 當權登記取消請求事件明治三十三年四月十日第二民事部判決)其二曰ク再買  
 買戻トハ其法律關係ヲ異  
 人所論ノ如シト雖モ不動産登記法上ニ於テハ特ニ再買買ノ登記又ハ買戻ノ登  
 記ナルモノ存セス就レノ場合ニ於テモ所有權移轉ノ登記ヲ爲スニ過キスシテ  
 唯登記原因カ再買買ナルト買戻ナルトノ差異ナルノミト(大審院明治三十七年  
 月十五日第二民事部判決)且ハ買戻ノ登記ハ買戻ノ登記ノ爲メニ爲シタル  
 買戻ノ登記ノ爲メニ爲シタルモノトシテ買戻ノ登記ノ爲メニ爲シタルモノトシ

# ● 學生募集

本大學新學年授業ハ來九月十二日ヨリ開始ス入學志願者ハ速ニ申込ムヘシ  
 學則入用ノ向ハ申越次第贈呈スヘシ

## ● 大學部

來九月新學年ヨリ新ニ講筵ヲ開ク中學校卒業者又ハ之ト同資格者ニシ  
 テ入學試験ニ及第シタル者又ハ他ノ同等學校豫科卒業者ヲ入學セシム  
 入學試験 來九月十五日(午前八時)ヨリ施行ス

## ● 專門部

法律科 入學試験來九月二日、十日、十月三日午前八時ヨリ施行ス  
 實業科 來九月一日(午前七時)ヨリ施行ス

## ● 高等研究科

來十月ヨリ授業ヲ開始ス  
 第貳期編入試験 來九月一日、十五日午前八時ヨリ施行ス

## ● 大學豫科

來九月授業開始以後隨時入學ヲ許ス  
 東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

九月 司法省指定 立 法政大學  
 文部省認定



# 法學志林

第五十九號  
(八月十五日發行)

○捕獲法ト公船 法學博士 松波仁一郎

○軍用病院船ニ關スル特權ノ範圍ヲ論ス 法學士 秋山雅之介

○最近判例批評 法學博士 梅 謙次郎

○「借財」ノ意義ニ關シ志方殿君ニ答フ 法學博士 梅 謙次郎

○權利ノ新種類ニ就テノ研究 法學博士 志田鉦太郎

纂論 ○憲國新手法(七) 法科大學生 佐竹三吾

解疑 ○會社ノ不行爲能力及其範圍 法學士 松本蒸治

判例 ○大審院新判決例 二十九件

雜報 ○法政速成科ノ無依假○拿捕事件ノ決議○軍人委託教護  
○北條時宗ノ通條○學位授與式○國語ノ推廣○包圍ノ會場起義事  
○其後○詐欺謀ノ恐惶○暴行看守ノ處罰○未決囚ノ減

記事 ○每學年各科擔任講師○實業盛況會○校友集助○寄附書

(明治三十六年十月十二日 第三種郵便物認可)  
每月十四日 三日五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行

明治三十七年八月卅一日印刷  
明治三十七年九月三日發行  
(定價金貳拾錢)

編輯者 東京市牛込區牛込北町十番地 萩原敬之

印刷者 東京市牛込區矢野町三番地 小宮山信好

印刷所 東京市芝區西ノ久保町會町十一番地 金子活版所

發行所 東京市總町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 法政大學

電話番町百七十四番